

障がい者福祉に関する アンケート調査 調査結果速報

2020年8月26日

一般財団法人
新潟経済社会リサーチセンター

目次

1. 調査概要と回答者の基本情報	2
2. 障がいの状況	14
3. 住まいや暮らしの状況	25
4. 日中活動の状況	32
5. 普段の相談の状況	42
6. 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用予定	45
7. 介護保険サービスの利用状況	52
8. 権利に関することについて	56
9. 災害時の避難などについて	60

1. 調査概要と回答者の基本情報

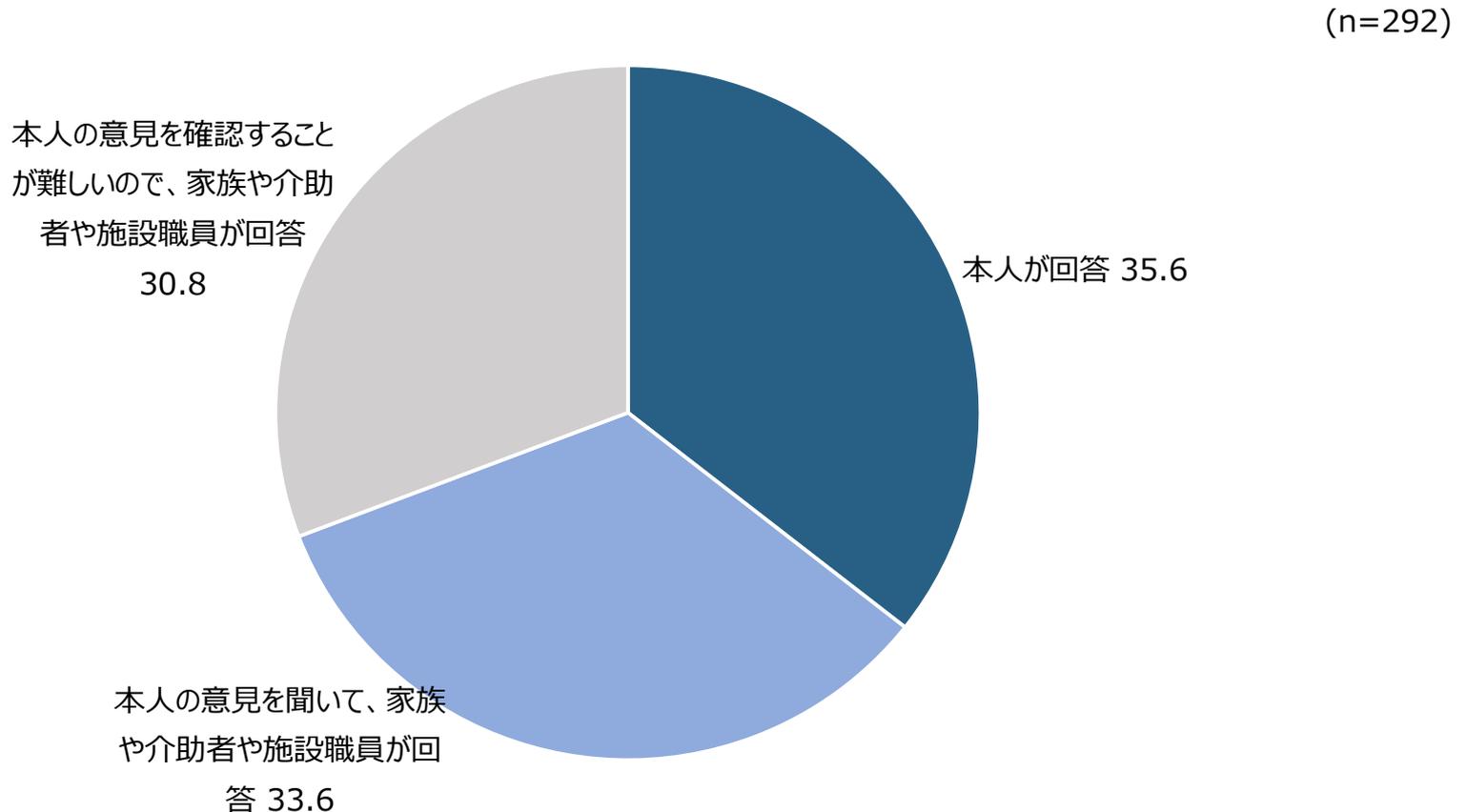
1.1 調査の概要

■ 調査の概要は以下のとおりである。

項目	内容
1. 調査名称	障がい者福祉に関するアンケート調査
2. 調査目的	市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的にアンケート調査を実施
3. 調査項目	(1) 回答者の基本情報 (2) 障がいの状況 (3) 住まいや暮らしの状況 (4) 日中活動の状況 (5) 普段の相談の状況 (6) 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用予定 (7) 介護保険サービスの利用状況 (8) 権利に関することについて (9) 災害時の避難などについて
4. 調査対象	佐渡市で福祉サービスを利用している障がい者 528人
5. 調査期間	令和2年6月30日～8月14日
6. 調査方法	郵送法
7. 調査主体	佐渡市
8. 調査実施機関	一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター
9. 回収結果	令和2年8月14日時点での有効回答数（回答率） 319票（60.4%）
10. その他	集計結果は無回答を除いている。また、四捨五入の関係で内訳の合計が100%にならない場合がある

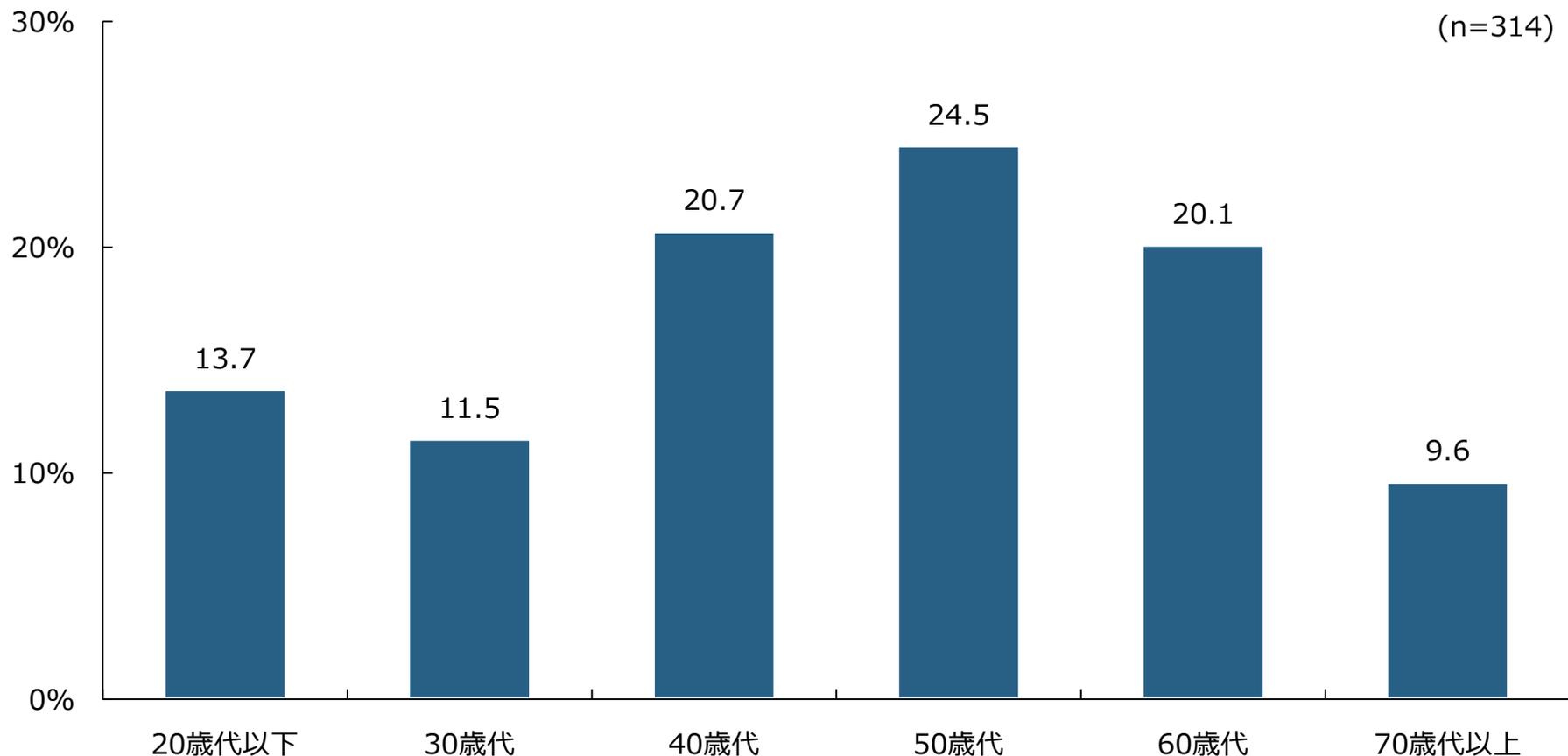
1.2 本人が回答は3割台半ば

- 今回の調査票に回答した人を尋ねたところ、「本人が回答」（35.6%）の割合が3割台半ば、「本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員が回答」（33.6%）が3割強、「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員が回答」（30.8%）の割合が約3割と、分散した結果となっている。



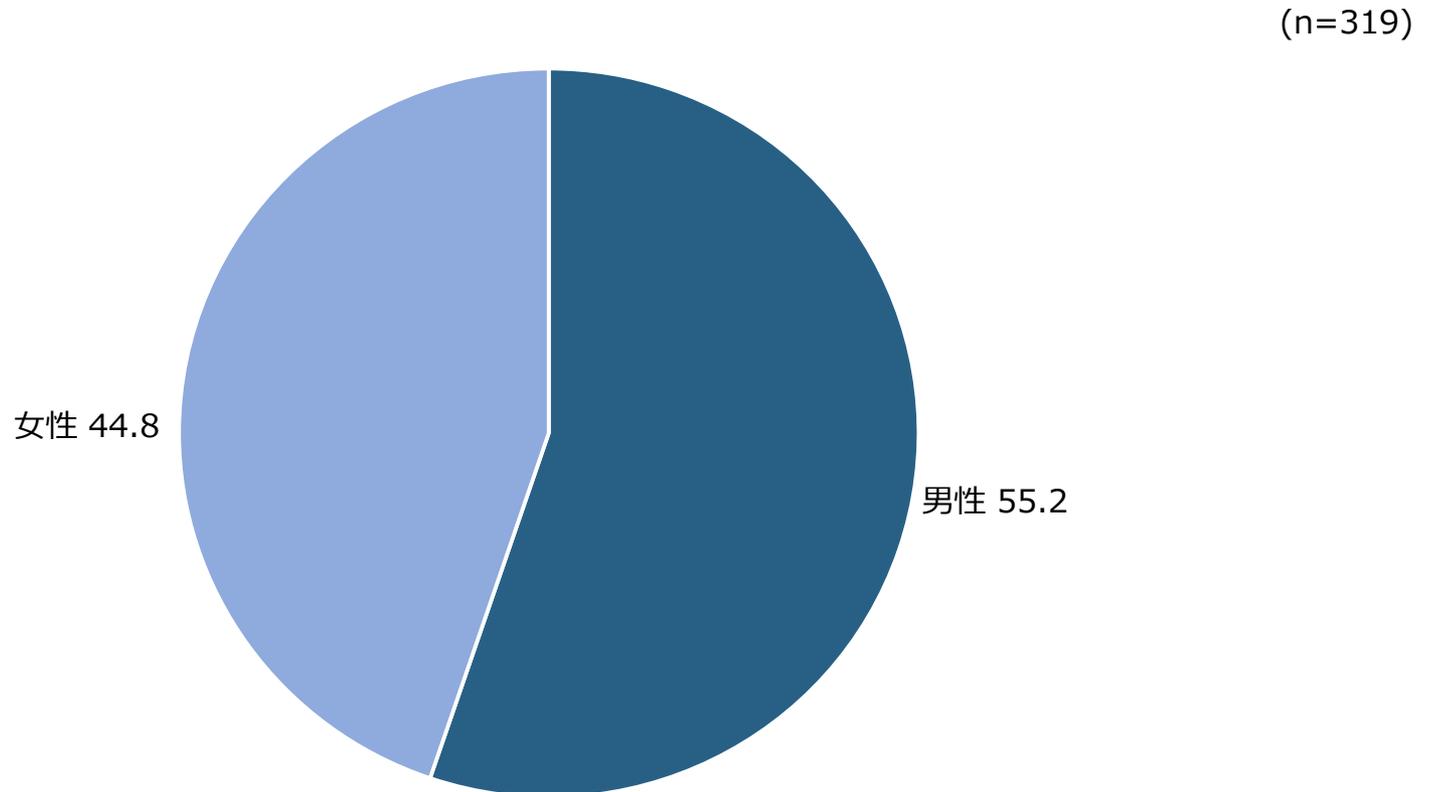
1.3 40歳代と50歳代で4割台半ばを占める

- 今回の調査対象となる人の年齢を尋ねたところ、「50歳代」(24.5%)の割合が2割台半ばで最も高く、以下「40歳代」(20.7%)と「60歳代」(20.1%)がそれぞれ約2割、「20歳代以下」(13.7%)と「30歳代」(11.5%)がそれぞれ1割強、「70歳代以上」(9.6%)が約1割となっている。



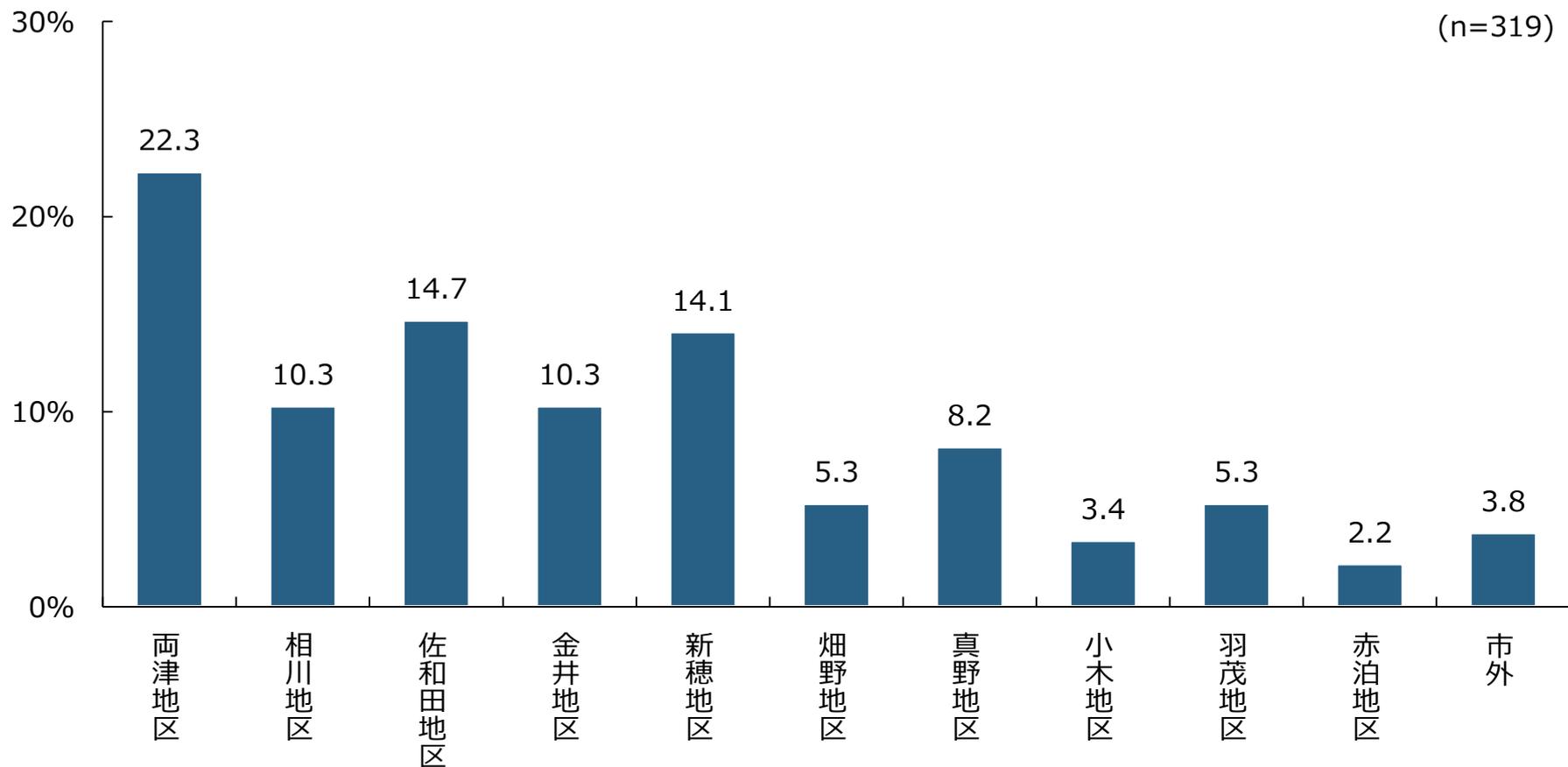
1.4 男性が5割台半ば、女性が4割台半ば

- 今回の調査対象となる人の性別を尋ねたところ、「男性」（55.2%）の割合が5割台半ばで、「女性」（44.8%）の4割台半ばとなっている。



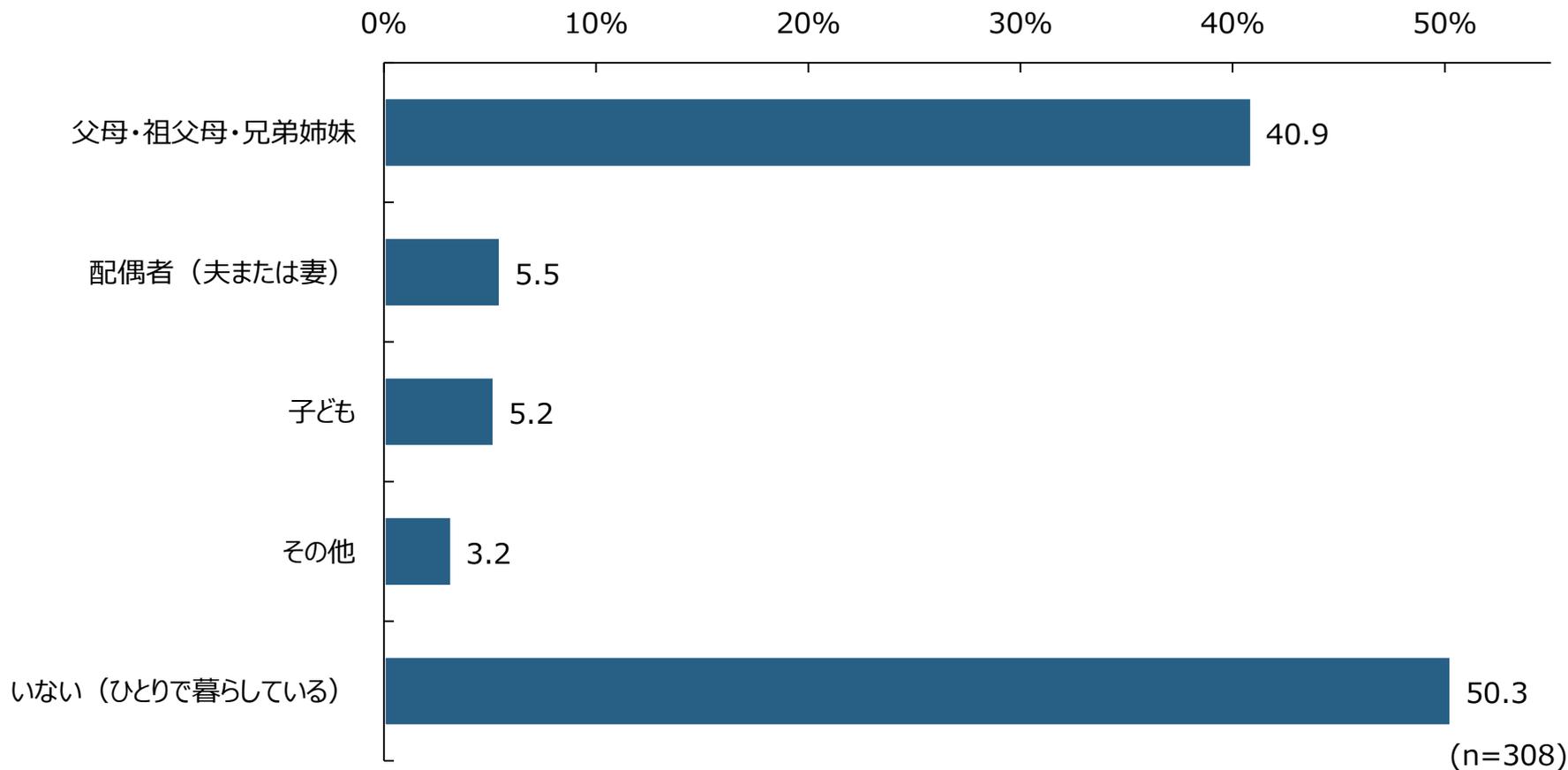
1.5 両津地区の回答割合が最も高い

- 今回の調査対象となる人の居住地区を尋ねたところ、「両津地区」(22.3%)の割合が最も高く、以下「佐和田地区」(14.7%)、「新穂地区」(14.1%)、「相川地区」「金井地区」(各10.3%)、「真野地区」(8.2%)などとなっている。



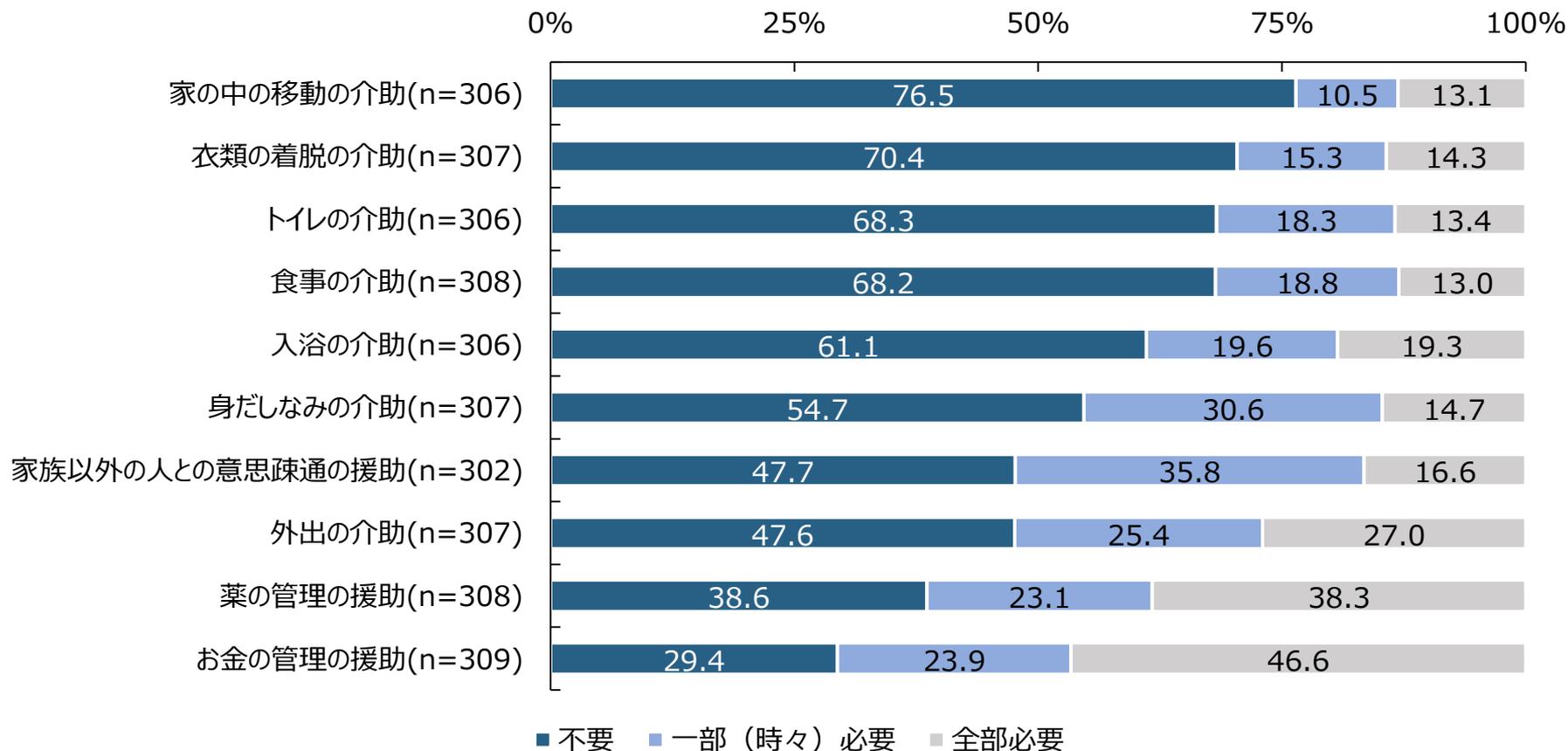
1.6 同居家族は父母・祖父母・兄弟姉妹が大半

- 同居家族の状況を尋ねたところ（複数回答）、「父母・祖父母・兄弟姉妹」（40.9%）の割合が最も高く、以下「配偶者」（5.5%）、「子ども」（5.2%）、「その他」（3.2%）となっている。
- 一方、「いない（ひとりで暮らしている）」（50.3%）とする割合は約5割となっている。



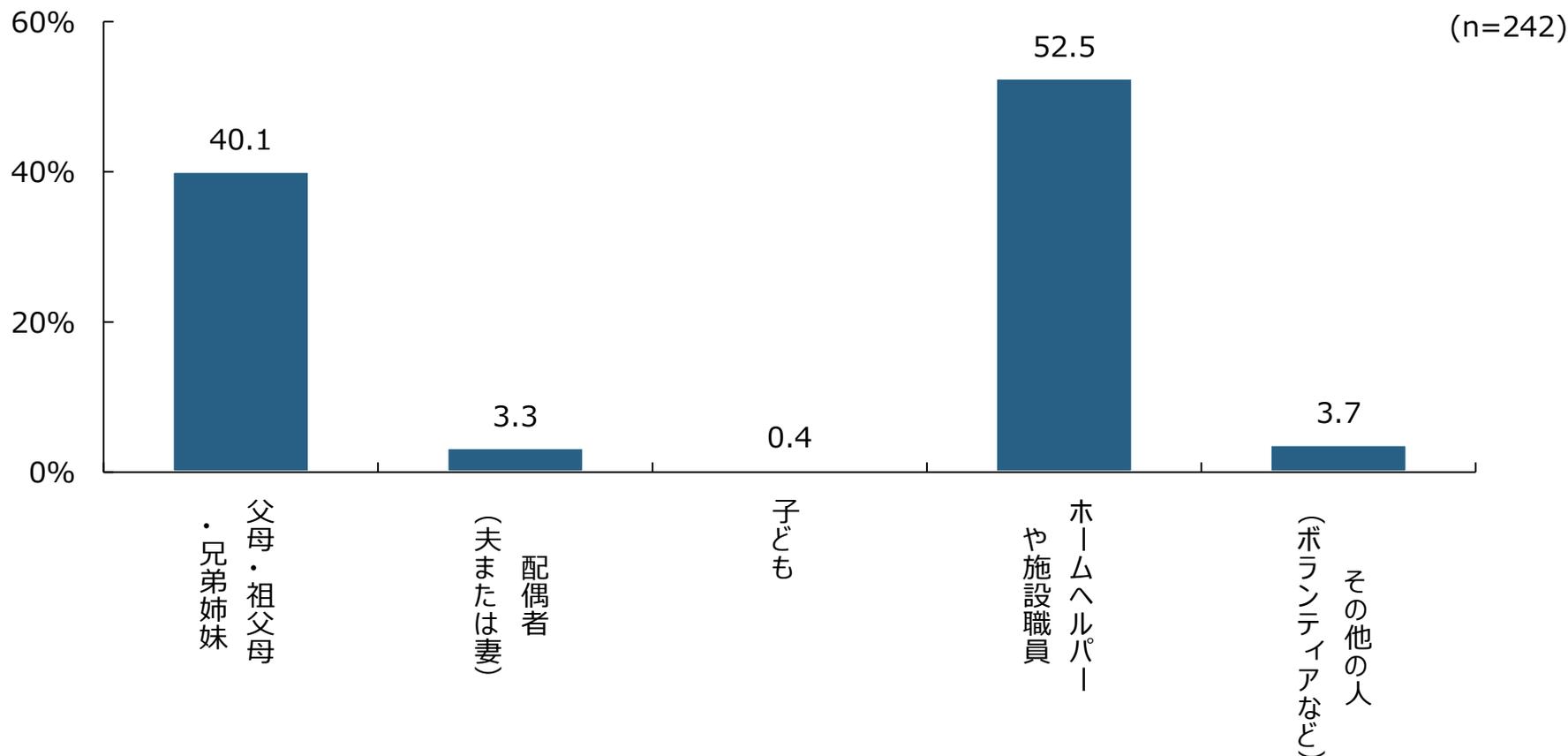
1.7 支援が必要なのはお金や薬の管理

- 日常生活の中の『食事の介助』～『薬の管理の援助』の10項目について、支援が必要か否かを尋ねたところ、支援が「不要」の割合が高い項目としては『家の中の移動の介助』『衣類の着脱の介助』『トイレの介助』『食事の介助』などの順となっている。
- 一方、支援が「一部（時々）必要」と「全部必要」を合わせた割合が高い項目としては『お金の管理の援助』『薬の管理の援助』『外出の介助』『家族以外の人との意思疎通の援助』などの順となっている。



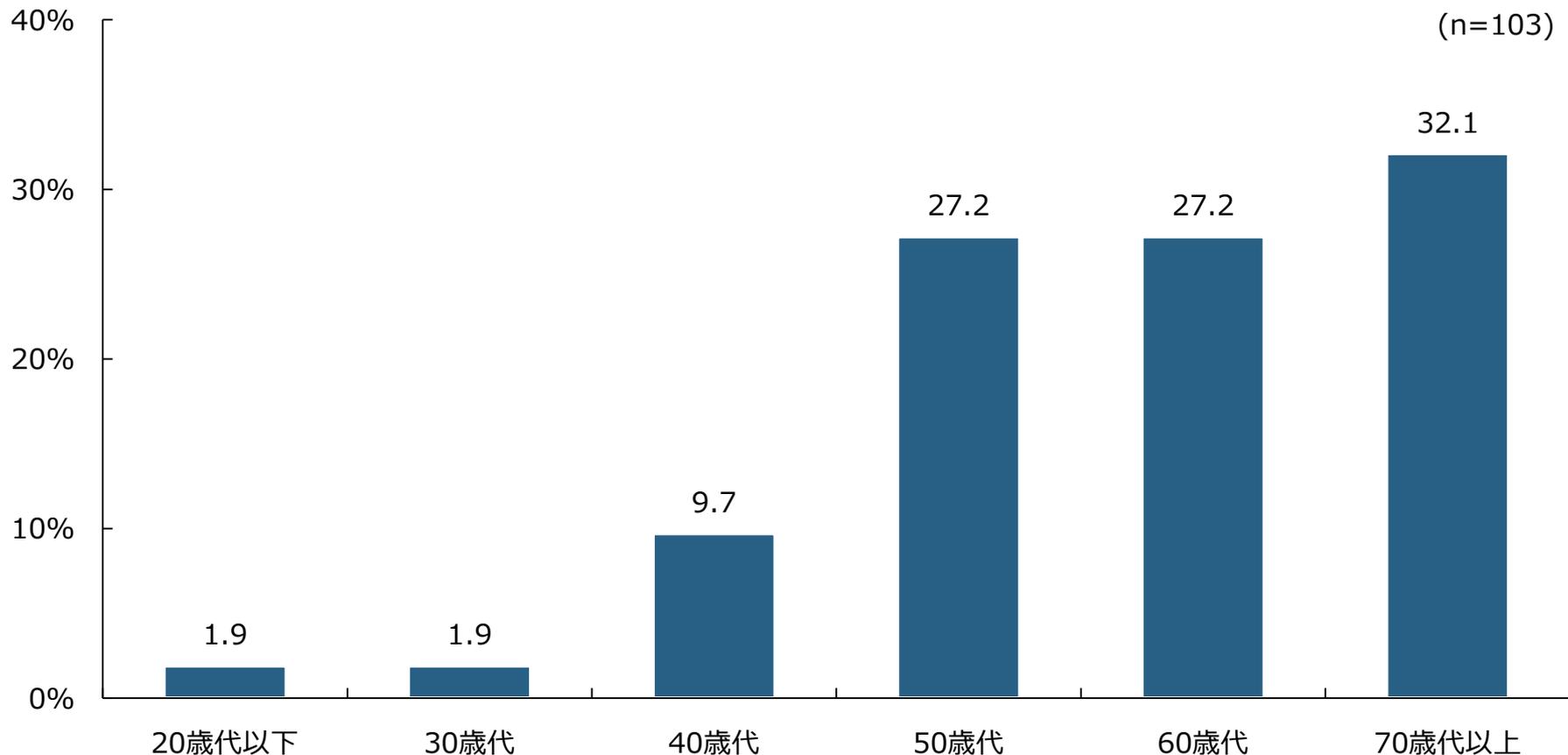
1.8 日常生活の主な支援者はホームヘルパー等や家族

- 日常生活の中の『食事の介助』～『薬の管理の援助』の10項目において、1項目でも支援が「一部（時々）必要」または「全部必要」と回答した人に、主に支援してくれる人を尋ねたところ、「ホームヘルパーや施設職員」（52.5%）とする割合が5割強で最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟姉妹」（40.1%）が約4割で続いている。



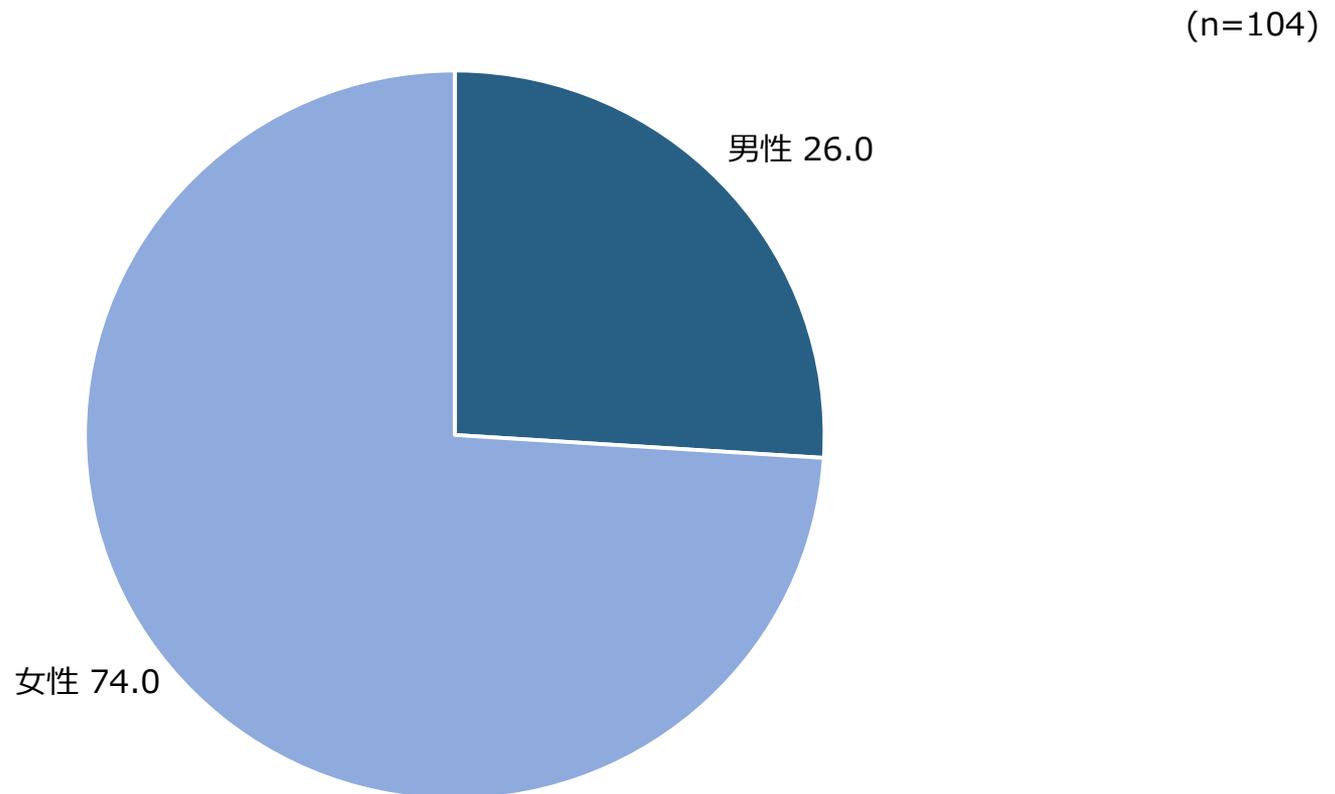
1.9 支援してくれる家族の年代は70歳代以上が3割強

- 主に支援してくれる人が家族（「父母・祖父母・兄弟姉妹」「配偶者（夫または妻）」「子ども」）と回答した人に、その人の年齢、性別、健康状態を尋ねた。
- まず、支援してくれる家族の年代についての回答状況を見ると、「70歳代以上」（32.1%）の割合が3割強で最も高く、以下「50歳代」「60歳代」（各27.2%）がそれぞれ3割弱などとなっている。



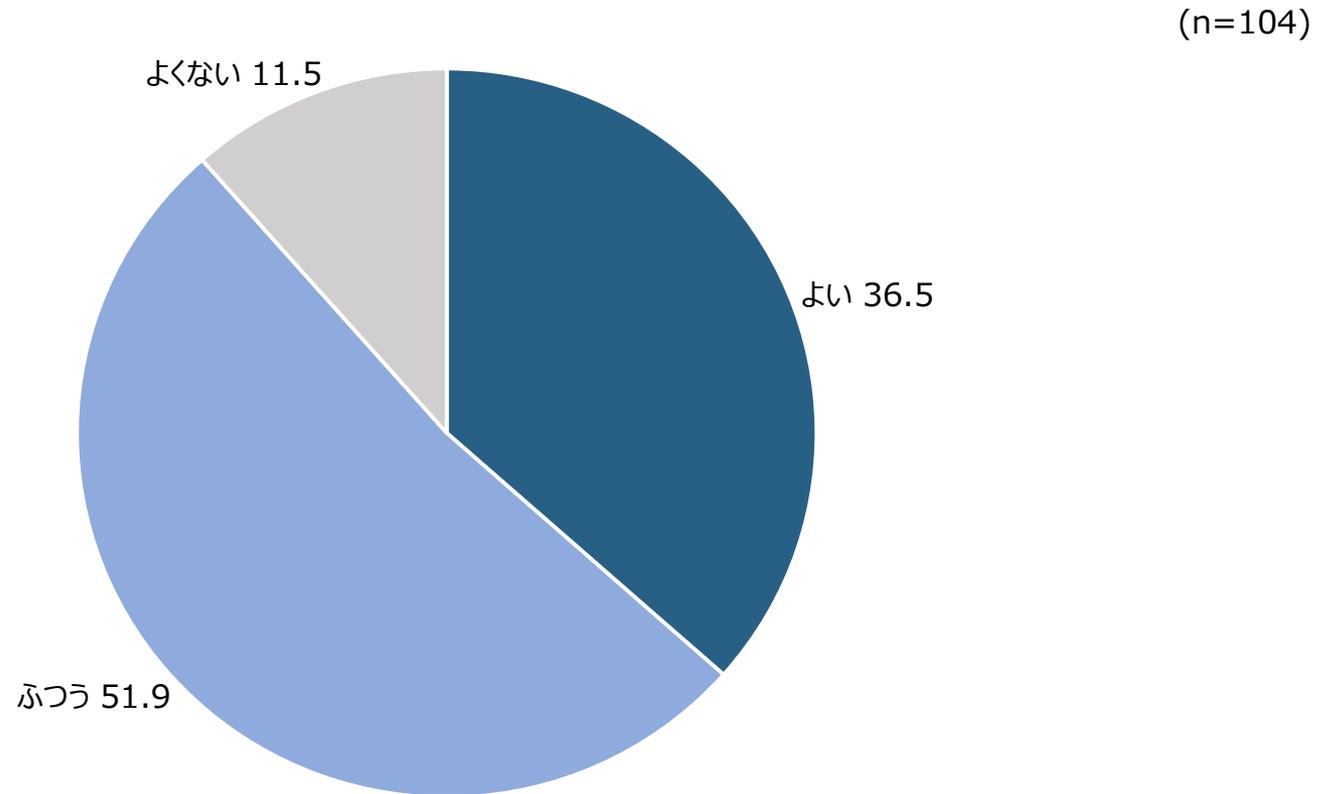
1.10 支援してくれる家族の大半は女性

- 次に、支援してくれる家族の性別についての回答状況を見ると、「女性」（74.0%）の割合が7割台半ばとなっており、「男性」（26.0%）の2割台半ばを大きく上回っている。



1.11 支援してくれる家族の健康状態がよくない人は1割強

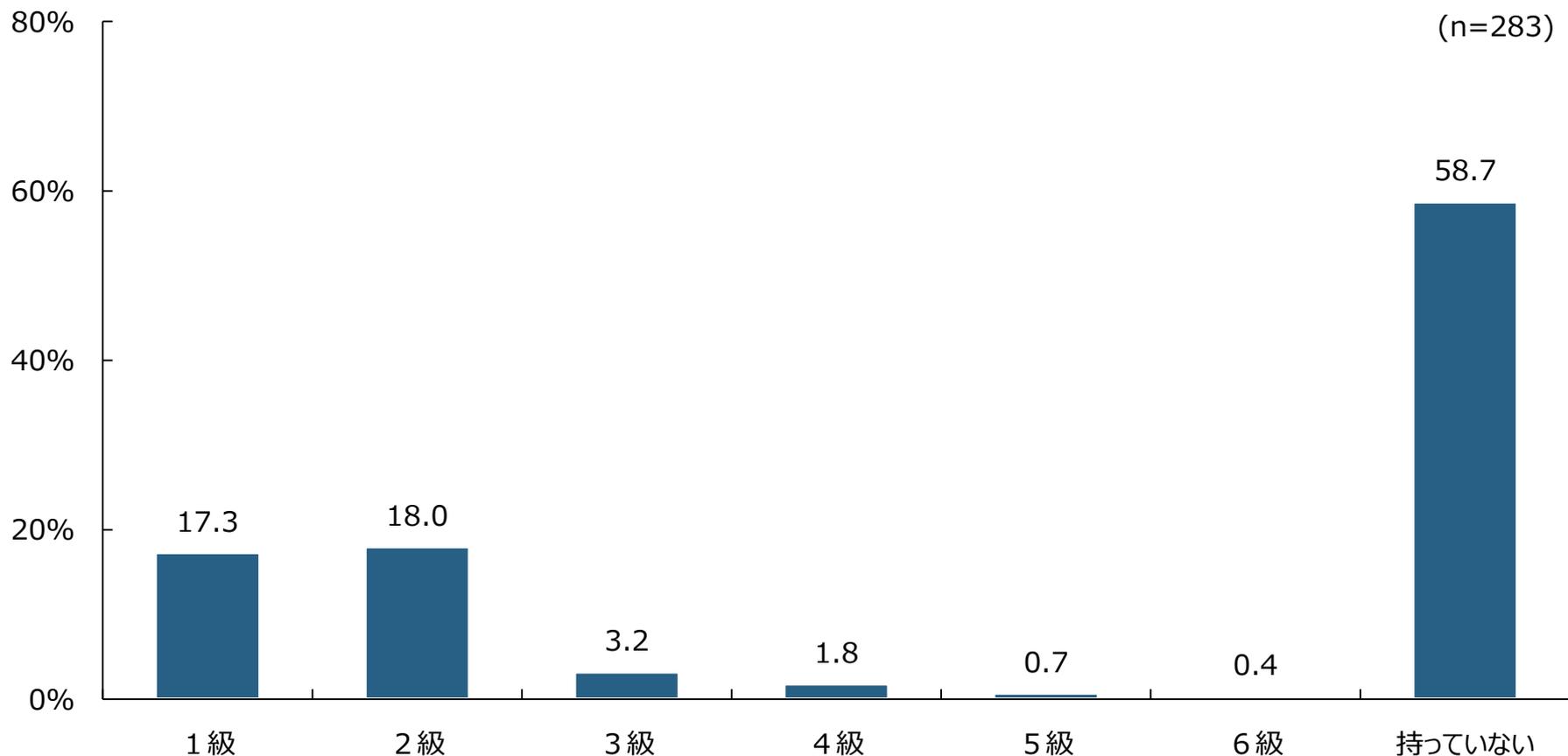
- 次に、支援してくれる家族の健康状態についての回答状況を見ると、「よい」(36.5%)の割合が3割台半ば、「ふつう」(51.9%)が5割強となっている。一方、「よくない」(11.5%)とする割合が1割強となっている。



2. 障がいの状況

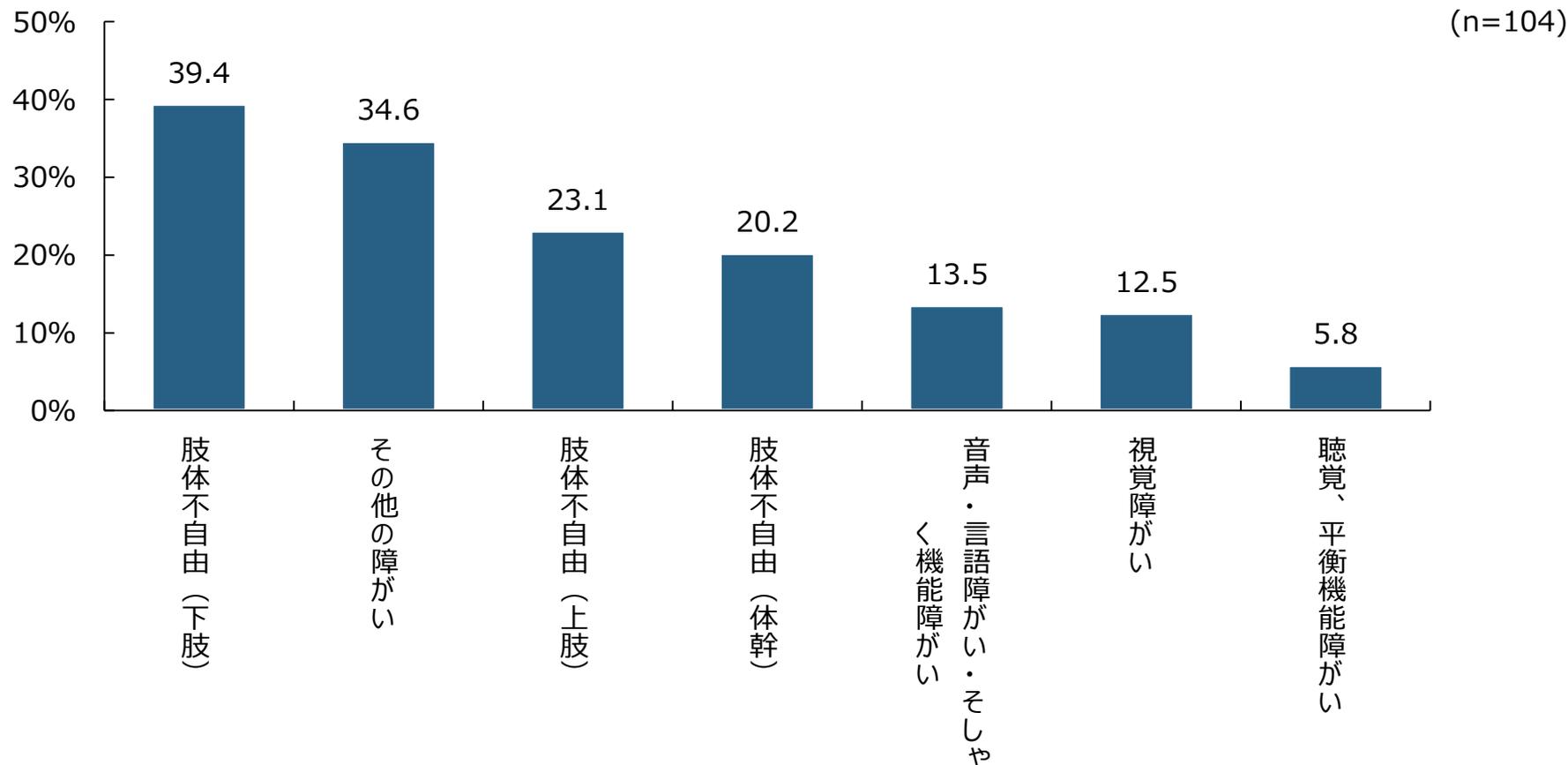
2.1 身体障害者手帳は持っていない人が6割弱

- 身体障害者手帳を持っているか否かを尋ねたところ、「持っていない」（58.7%）とする割合が6割弱で最も高くなっている。
- 一方、身体障害者手帳持っている人では「2級」（18.0%）、「1級」（17.3%）、「3級」（3.2%）、「4級」（1.8%）、「5級」（0.7%）、「6級」（0.4%）の順となっている。



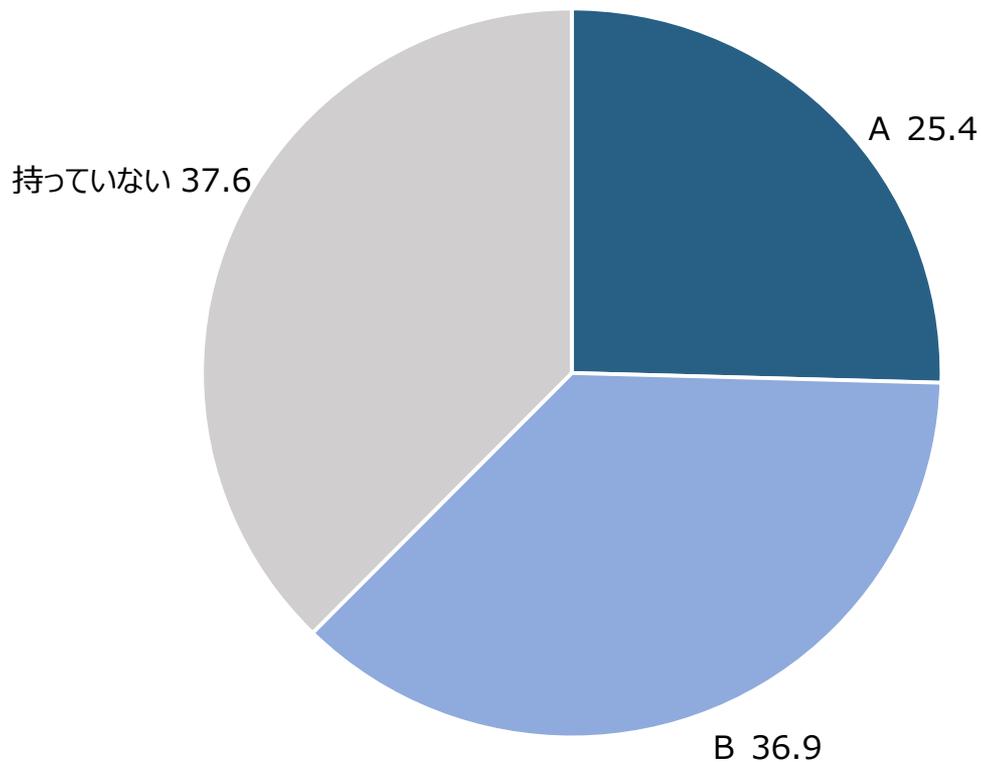
2.2 肢体不自由の障が多い

- 身体障害者手帳を持っていると回答した人に主たる障がいを探ねたところ（複数回答）、「肢体不自由（下肢）」（39.4%）の割合が約4割で最も高く、以下「その他の障がい」（34.6%）、「肢体不自由（上肢）」（23.1%）、「肢体不自由（体幹）」（20.2%）、「音声・言語障がい・そしゃく機能障がい」（13.5%）、「視覚障がい」（12.5%）、「聴覚、平衡機能障がい」（5.8%）などとなっている。



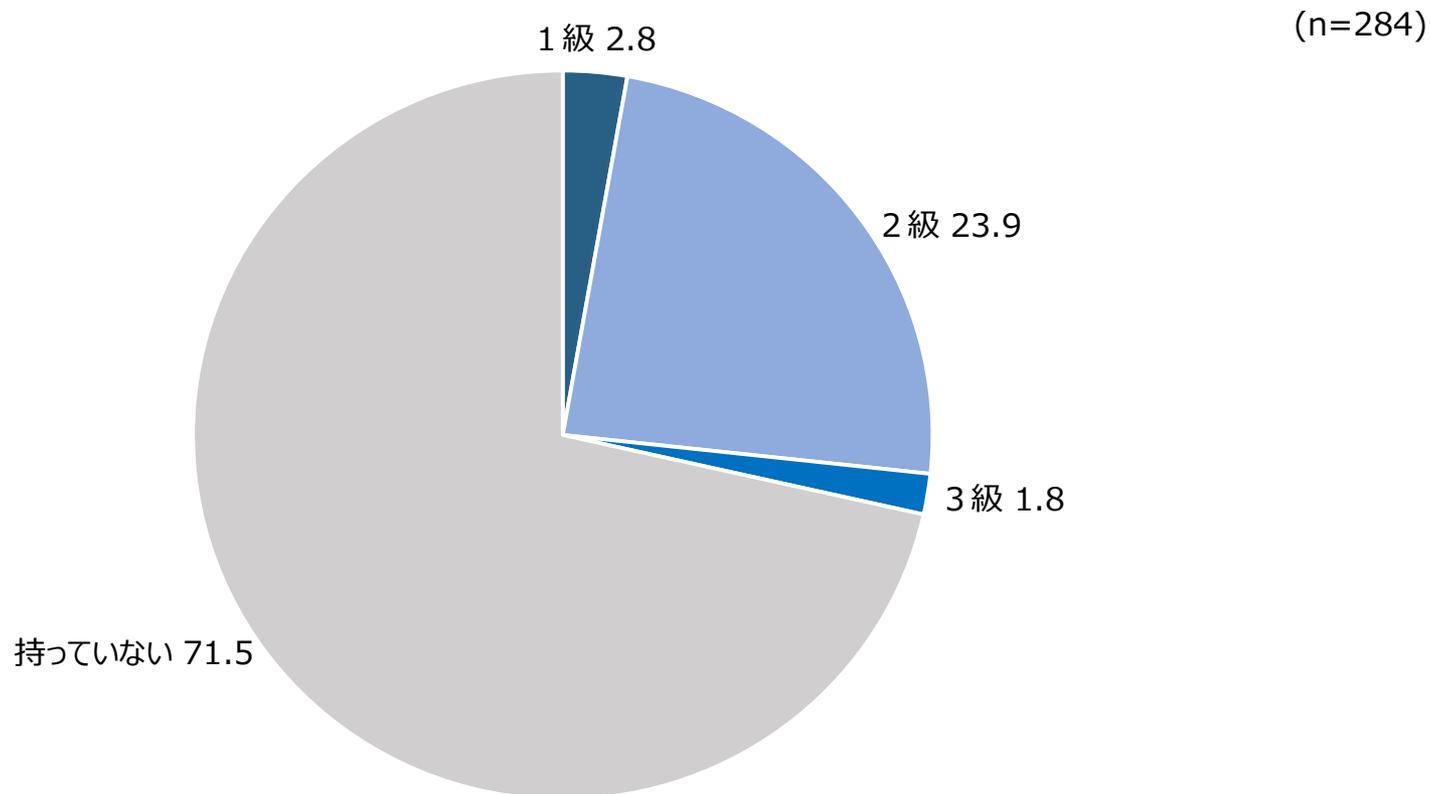
2.3 療育手帳Aの所有者は2割台半ば、Bは3割台半ば

- 療育手帳を持っているか否かを尋ねたところ、障がいの程度が重度の「A」（25.4%）とする割合が2割台半ば、障がいの程度がA以外の「B」（36.9%）が3割台半ばとなっている。
- 残りの4割弱が「持っていない」（37.6%）としている。



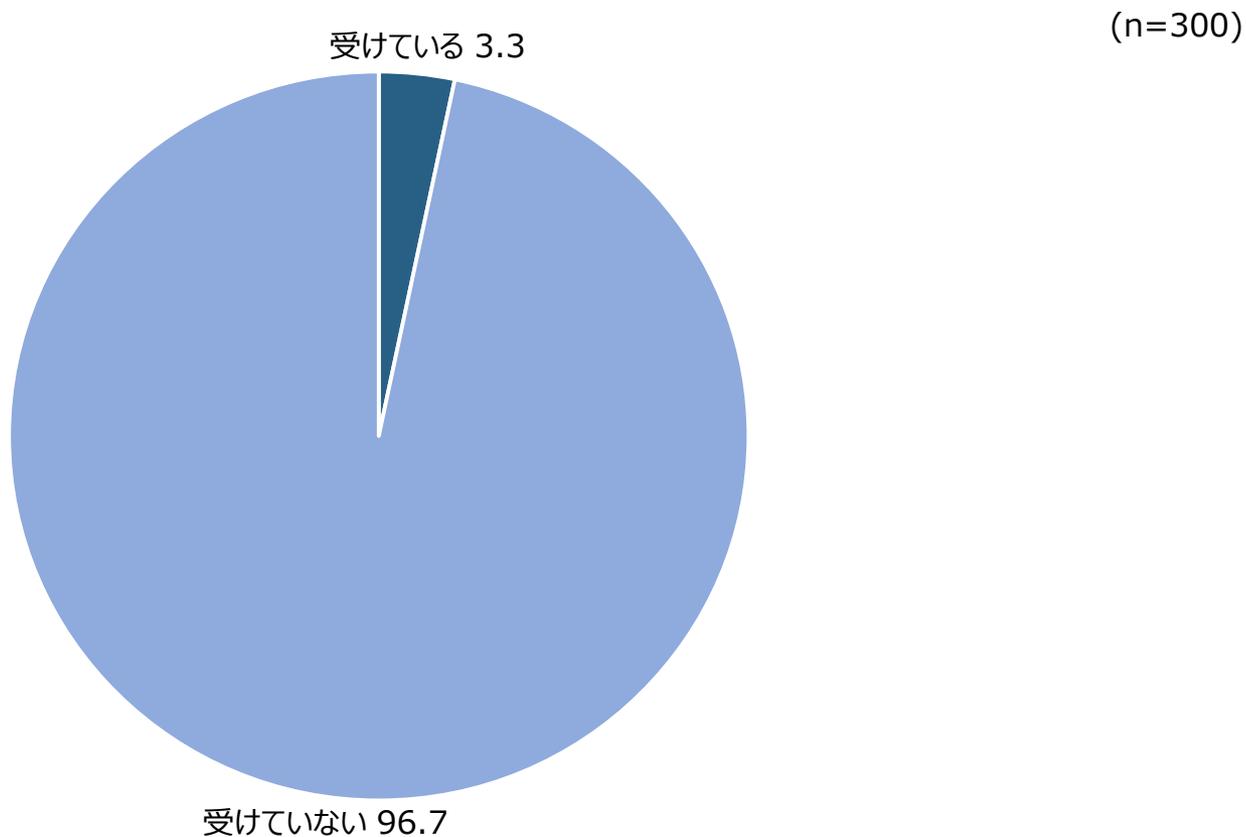
2.4 精神障害者保健福祉手帳は持っている人は3割弱

- 精神障害者保健福祉手帳を持っているか否かを尋ねたところ、「持っていない」(71.5%)とする割合が7割強となっている。
- 一方、精神障害者保健福祉手帳持っている人では「2級」(23.9%)、「1級」(2.8%)、「3級」(1.8%)の順となっている。



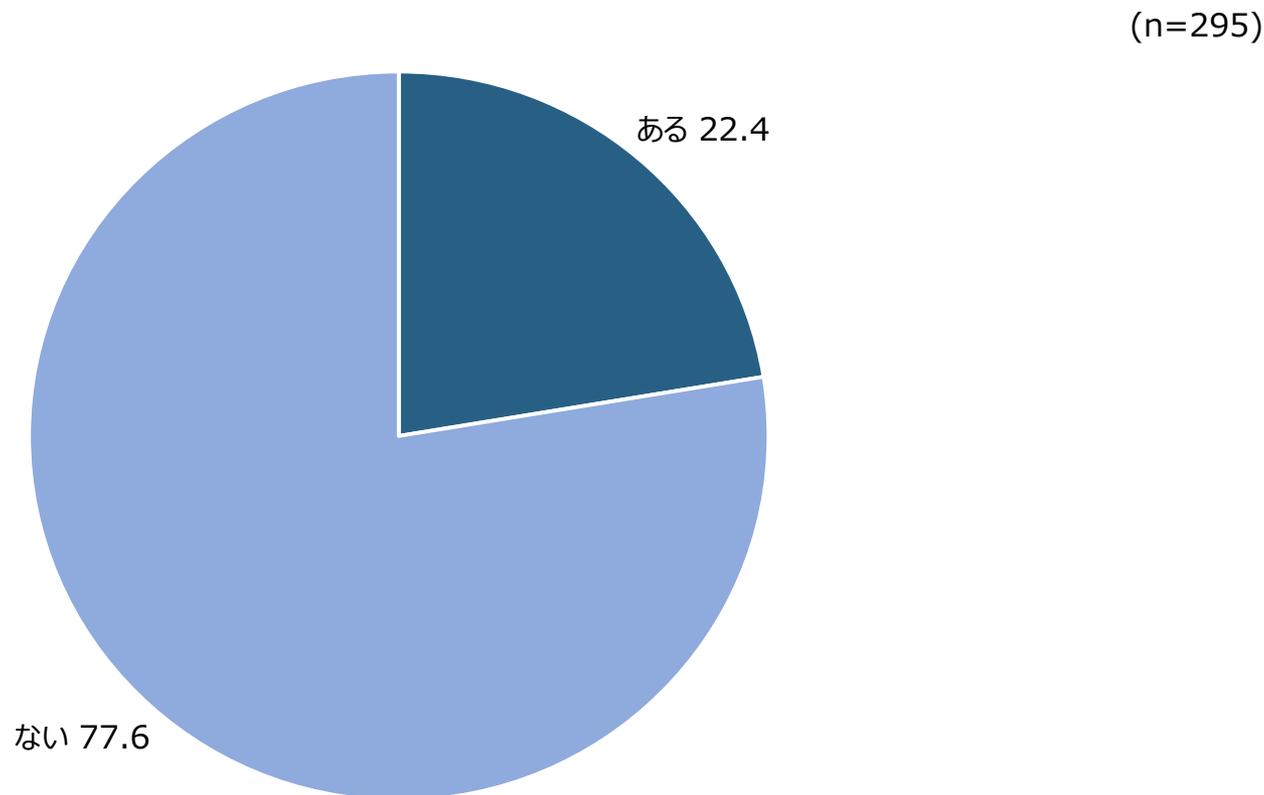
2.5 指定難病の認定は少数

- 難病（筋萎縮性側索硬化症〔ALS〕やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病やその他の特殊な疾病などの指定難病）の認定の有無を尋ねたところ、「受けている」とする割合は3.3%にとどまり、「受けていない」（96.7%）がほとんどとなっている。



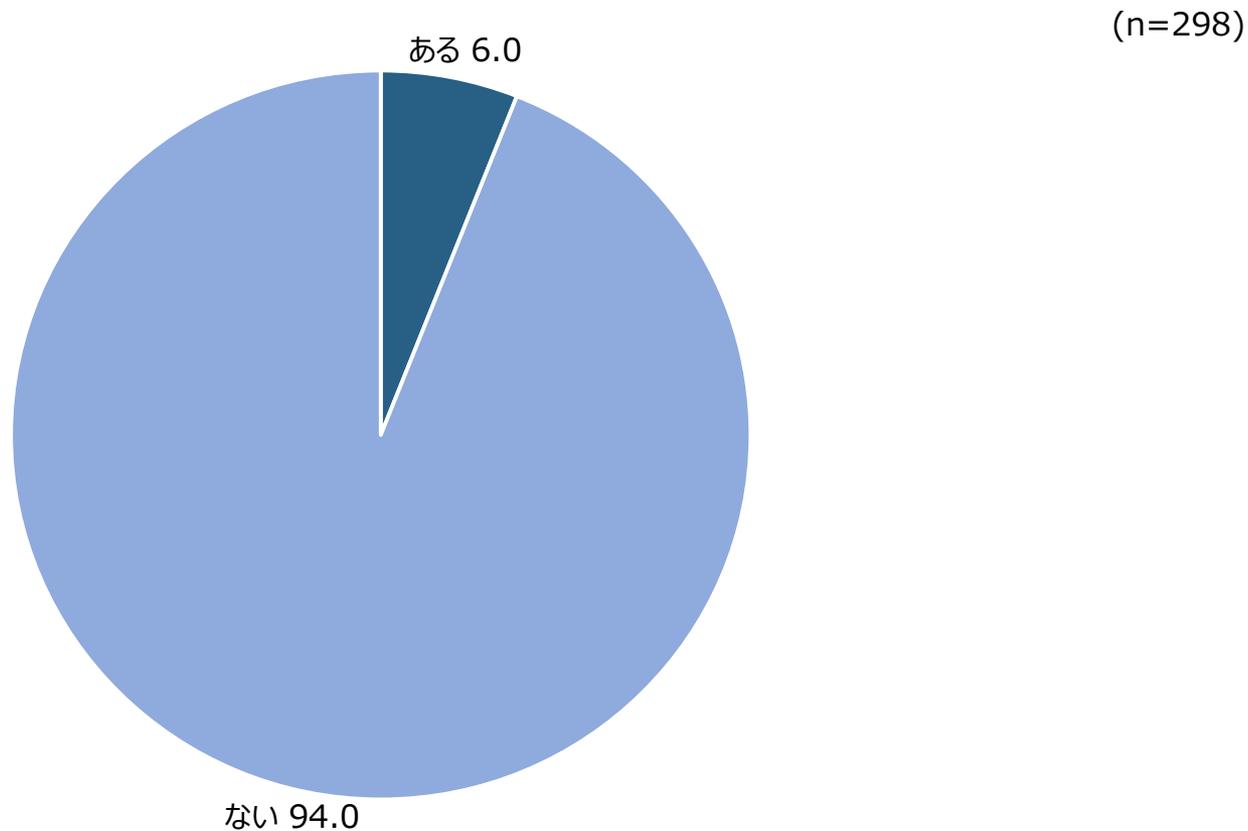
2.6 発達障がいと診断されたことのある人は2割強

- 発達障がいと診断されたことの有無を尋ねたところ、「ある」（22.4%）とする割合が2割強となっている一方で、「ない」（77.6%）とする割合は8割弱となっている。



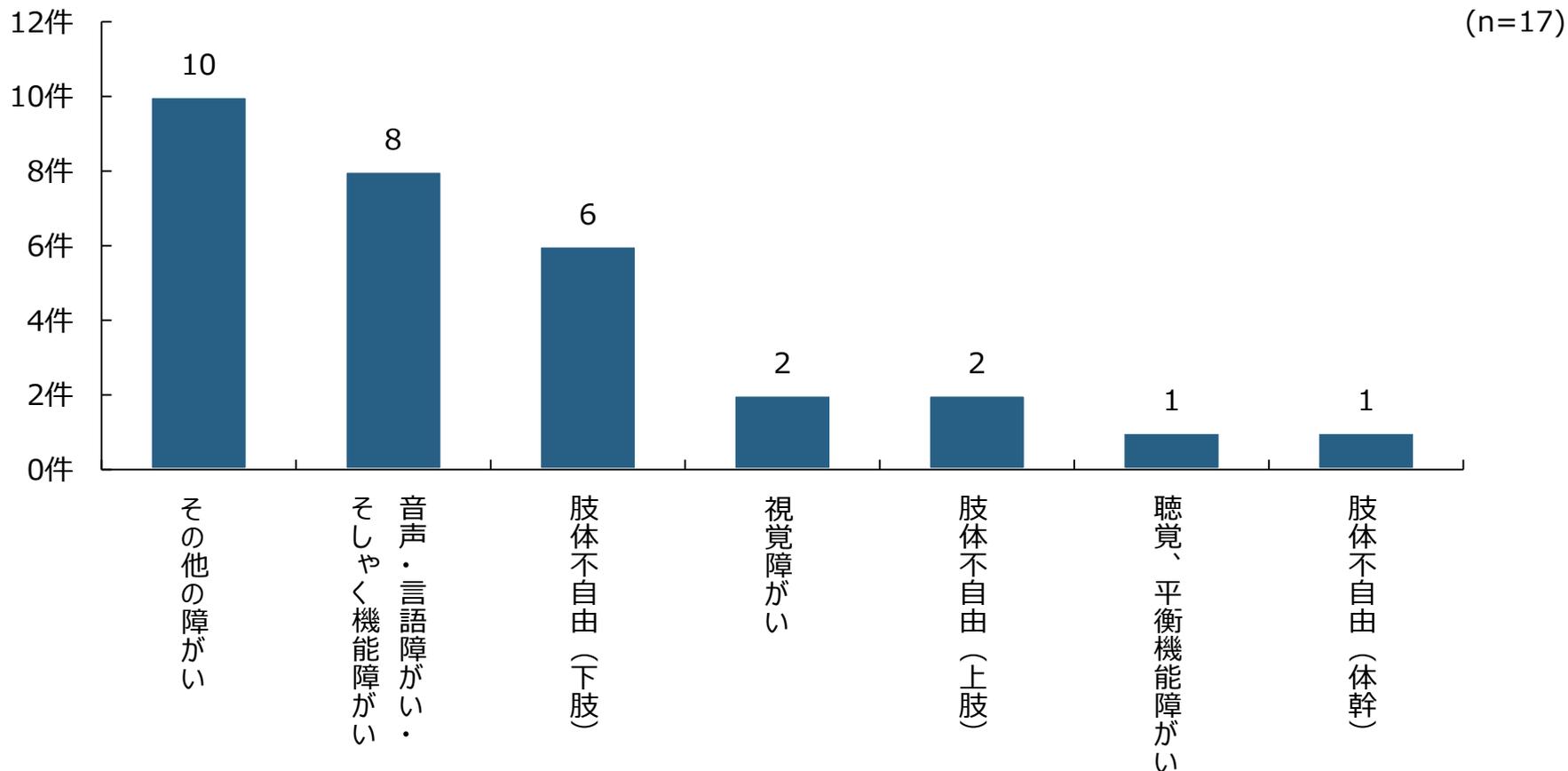
2.7 高次機能障がいの診断経験がある人は少数

- 高次機能障がい（外傷性脳損傷、脳血管障がいなどにより、脳に損傷を受け、その後遺症などとして生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がいなどの認知障がいなどを指すもの）と診断されたことの有無を尋ねたところ、「ある」とする割合は6.0%にとどまり、「ない」（94.0%）がほとんどとなっている。



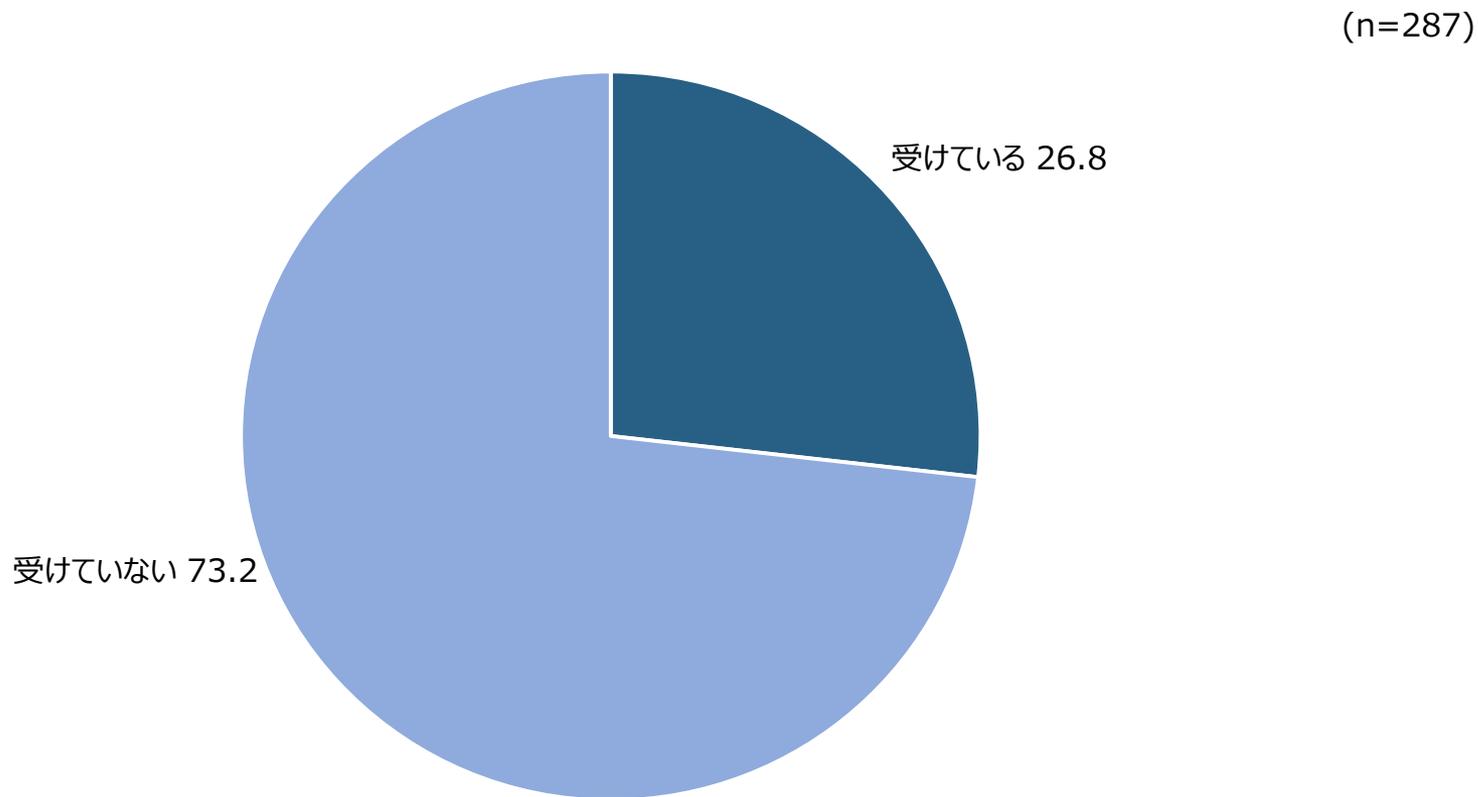
2.8 高次機能障がいに関連障がいとしてその他の障がいが多い

- 高次機能障がいと診断されたことがある人に、その関連障がいを尋ねたところ（複数回答）、「その他の障がい」（10件）が最も多く、以下「音声・言語障がい・そしゃく機能障がい」（8件）、「肢体不自由（下肢）」（6件）などとなっている。



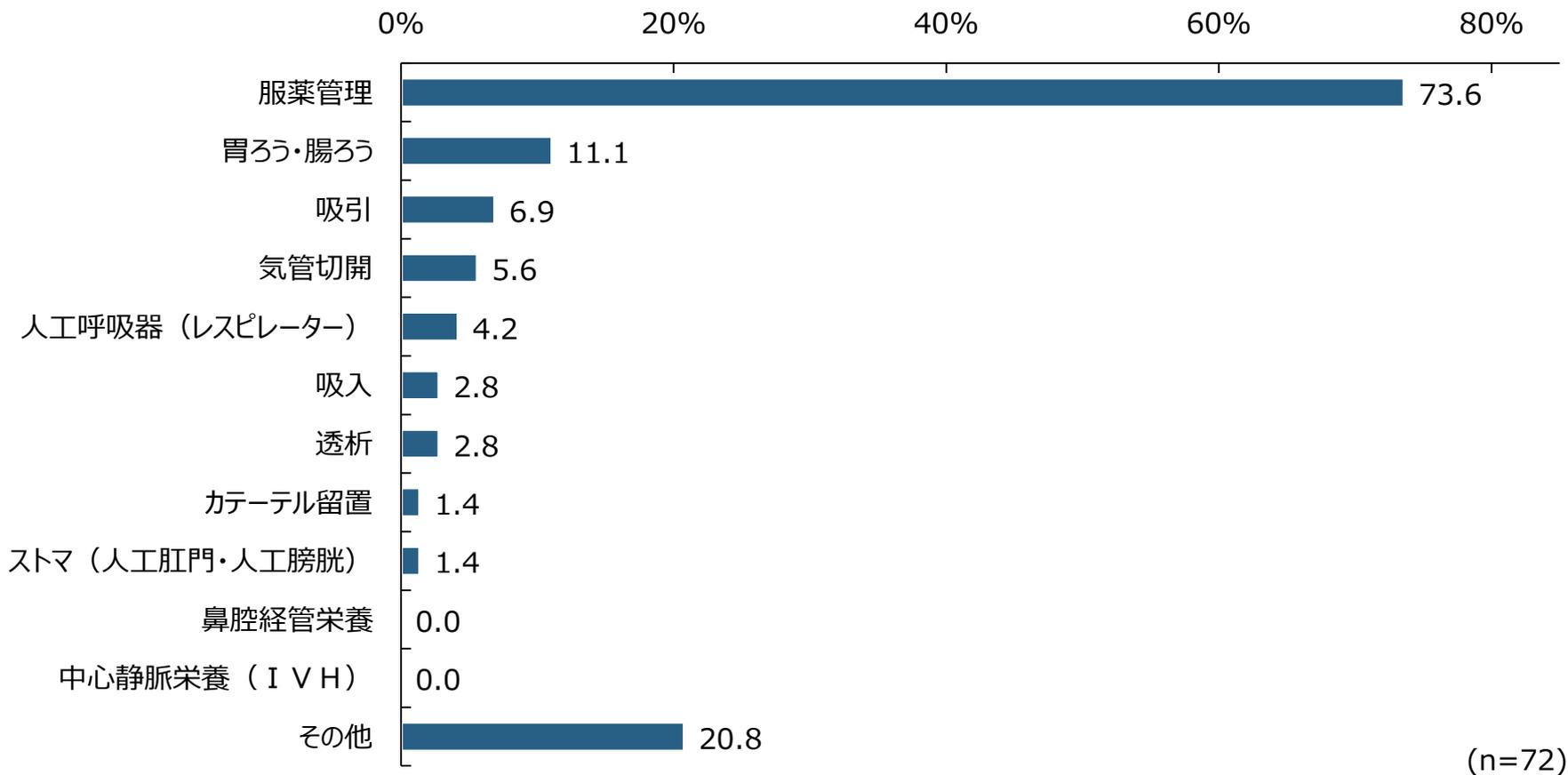
2.9 医療的ケアの受診者は2割台半ば

- 現在、医療的ケアを受けているか否かを尋ねたところ、「受けている」（26.8%）とする割合が2割台半ば、「受けていない」（73.2%）とする割合が7割強となっている。



2.10 医療的ケアについては服薬管理がほとんど

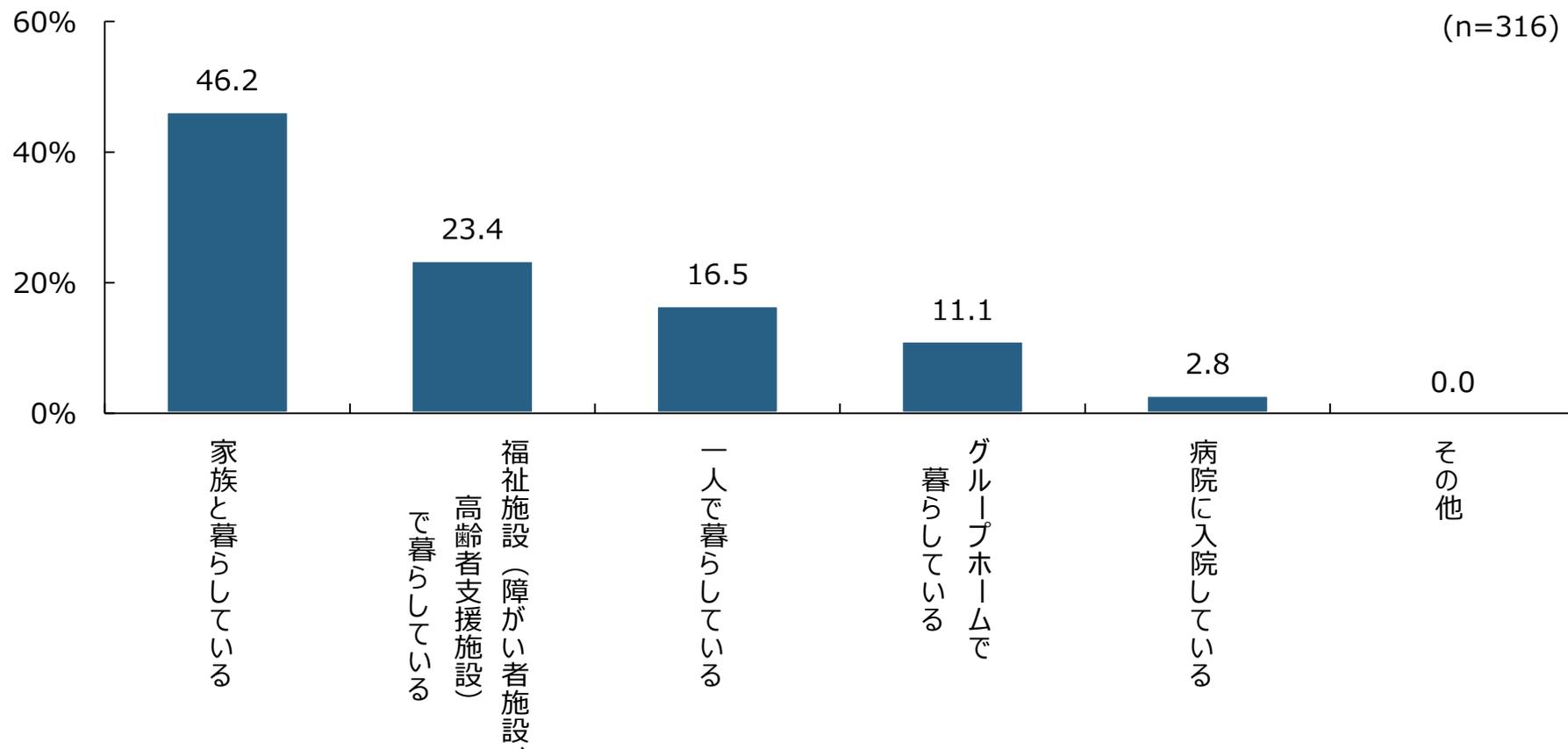
- 現在、医療的ケアを受けていると回答した人に、医療的ケアの内容を尋ねたところ（複数回答）、「服薬管理」（73.6%）の割合が特に高くなっている。以下「その他」（20.8%）、「胃ろう・腸ろう」（11.1%）、「吸引」（6.9%）、「気管切開」（5.6%）、「人工呼吸器（レスピレーター）」（4.2%）などとなっている。
- 「その他」の具体的な内容としては、「下肢痛のリハビリ」「D B S 脳深部刺激療法」などが挙げられている。



3. 住まいや暮らしの状況

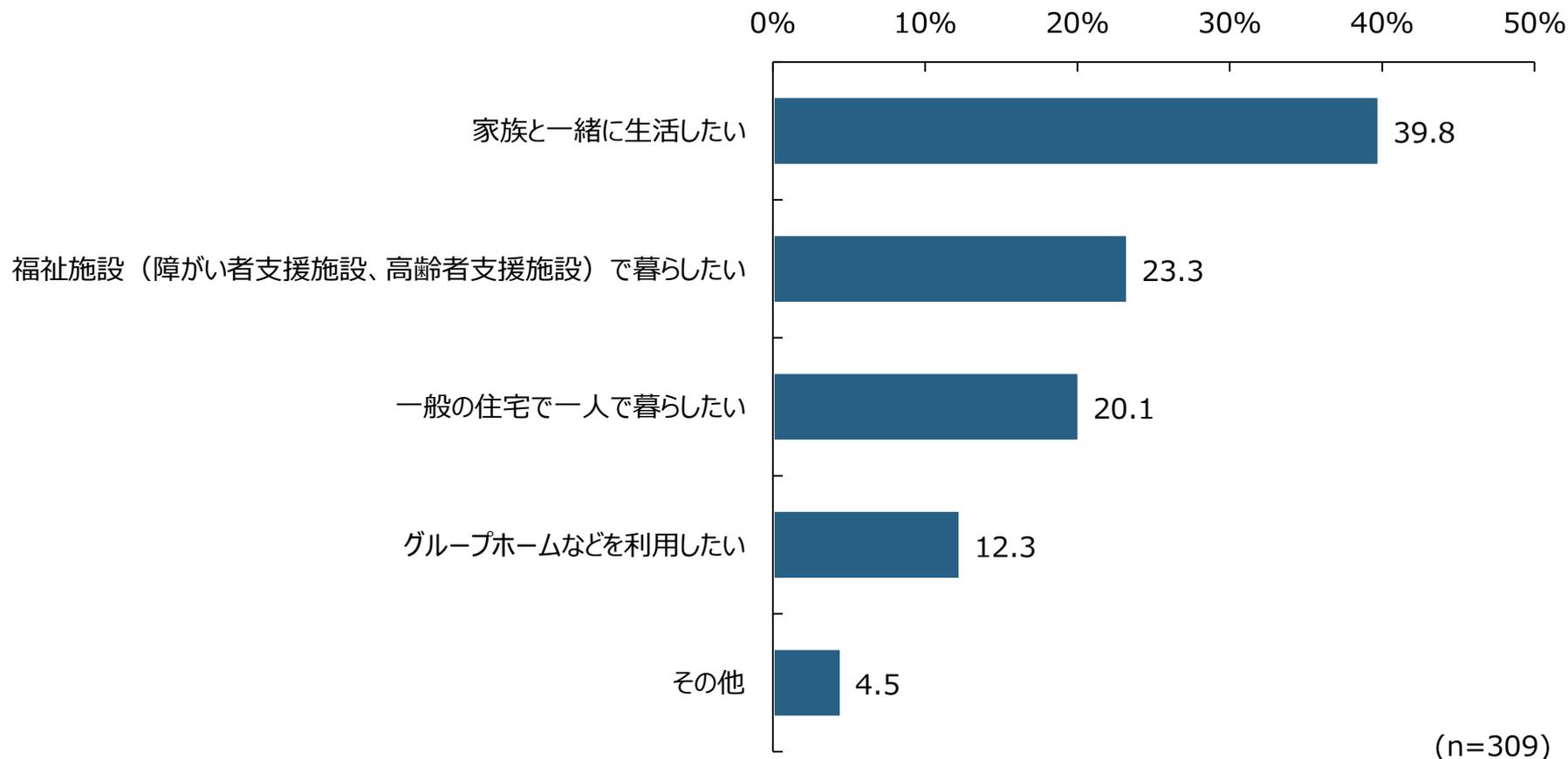
3.1 家族と暮らしている人が4割台半ばが多い

- 現在の暮らしぶりを尋ねたところ、「家族と暮らしている」（46.2%）とする割合が4割台半ばで最も高くなっている。残りの人は「福祉施設（障がい者施設、高齢者支援施設）で暮らしている」（23.4%）、「一人で暮らしている」（16.5%）、「グループホームで暮らしている」（11.1%）、「病院に入院している」（2.8%）などとなっている。



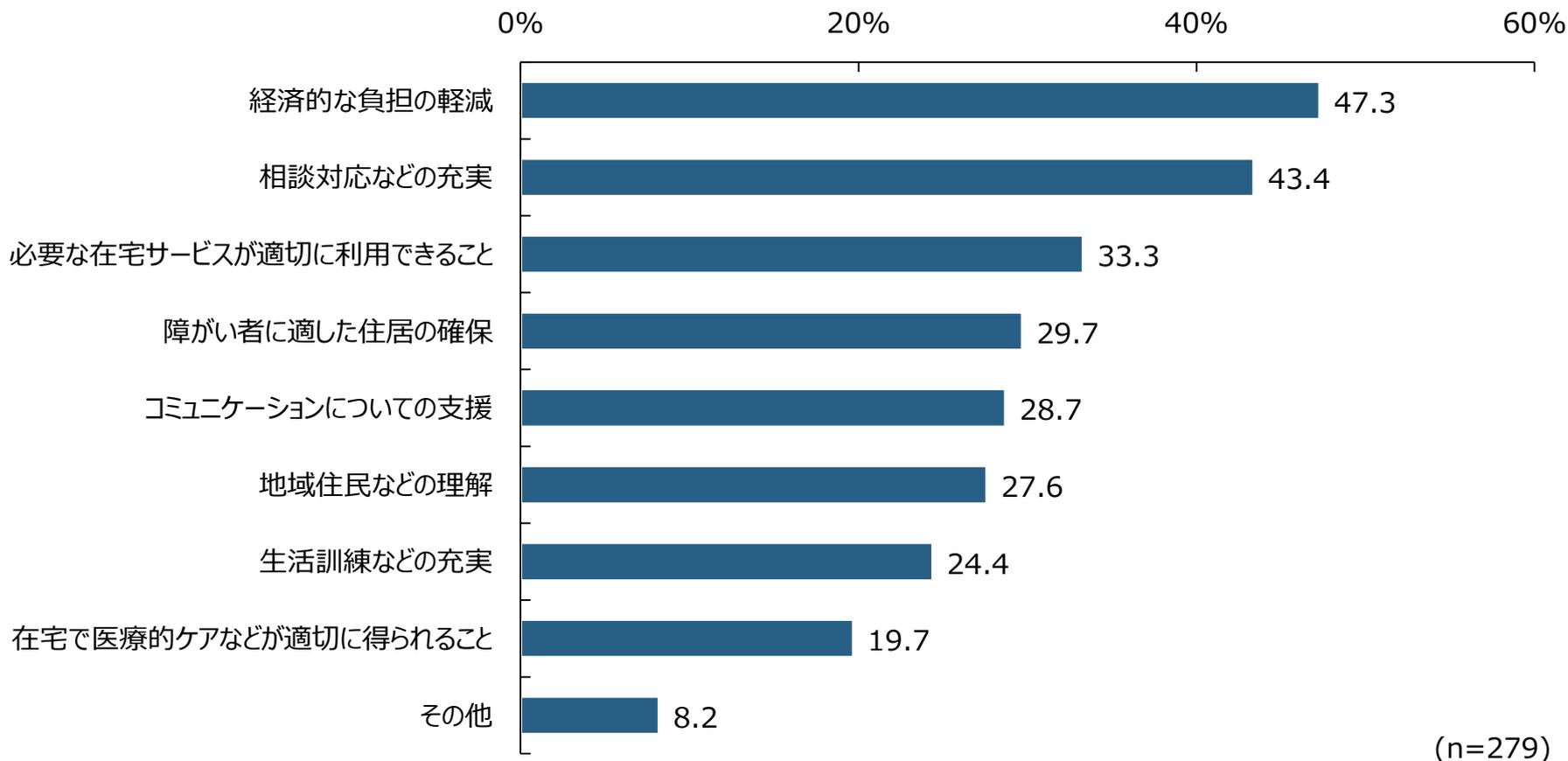
3.2 約4割が家族と一緒に生活を希望

- 今後3年以内にどのような暮らしをしたいかを尋ねたところ、「家族と一緒に生活したい」（39.8%）の割合が最も高く、以下「福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」（23.3%）、「一般の住宅で一人で暮らしたい」（20.1%）、「グループホームなどを利用したい」（12.3%）、「その他」（4.5%）などとなっている。
- 「その他」（4.5%）の具体的な内容としては、「今のままでよい」「入院を続けたい」「退院の予定がない」「交際相手と結婚したい」などが挙げられている。



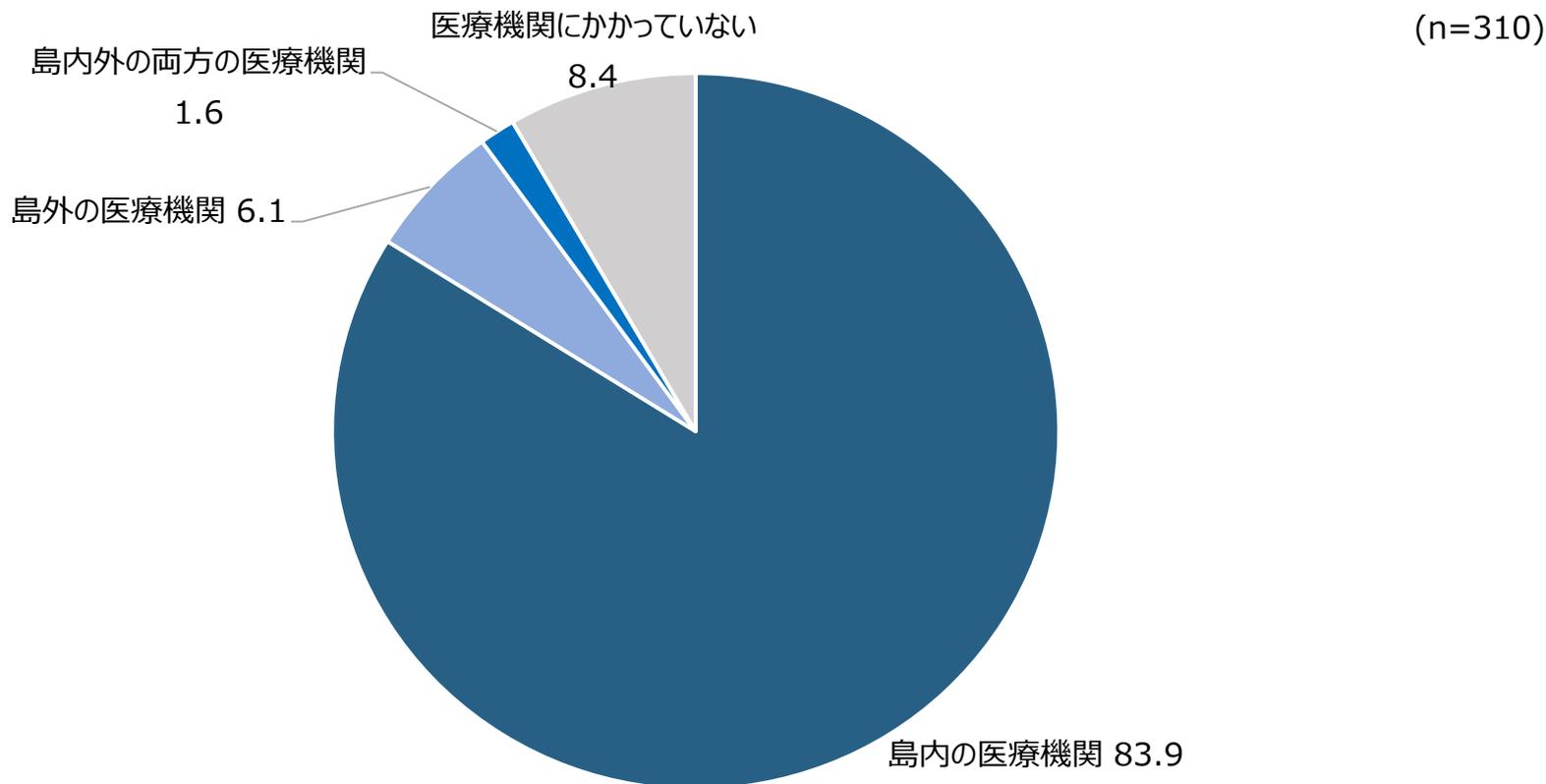
3.3 経済的な負担の軽減と相談対応などの充実を望む割合が高い

- 希望する暮らしを送るために望む支援を尋ねたところ（複数回答）、「経済的な負担の軽減」（47.3%）の割合が最も高く、以下「相談対応などの充実」（43.4%）、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」（33.3%）、「障がい者に適した住居の確保」（29.7%）、「コミュニケーションについての支援」（28.7%）、「地域住民などの理解」（27.6%）、「生活訓練などの充実」（24.4%）などとなっている。
- 「その他」（8.2%）の具体的な内容としては、「作業所、障がい者施設の新設」「就労支援施設・就労場所」「家族で見られない時の対応」「支援員の増員」などが挙げられている。



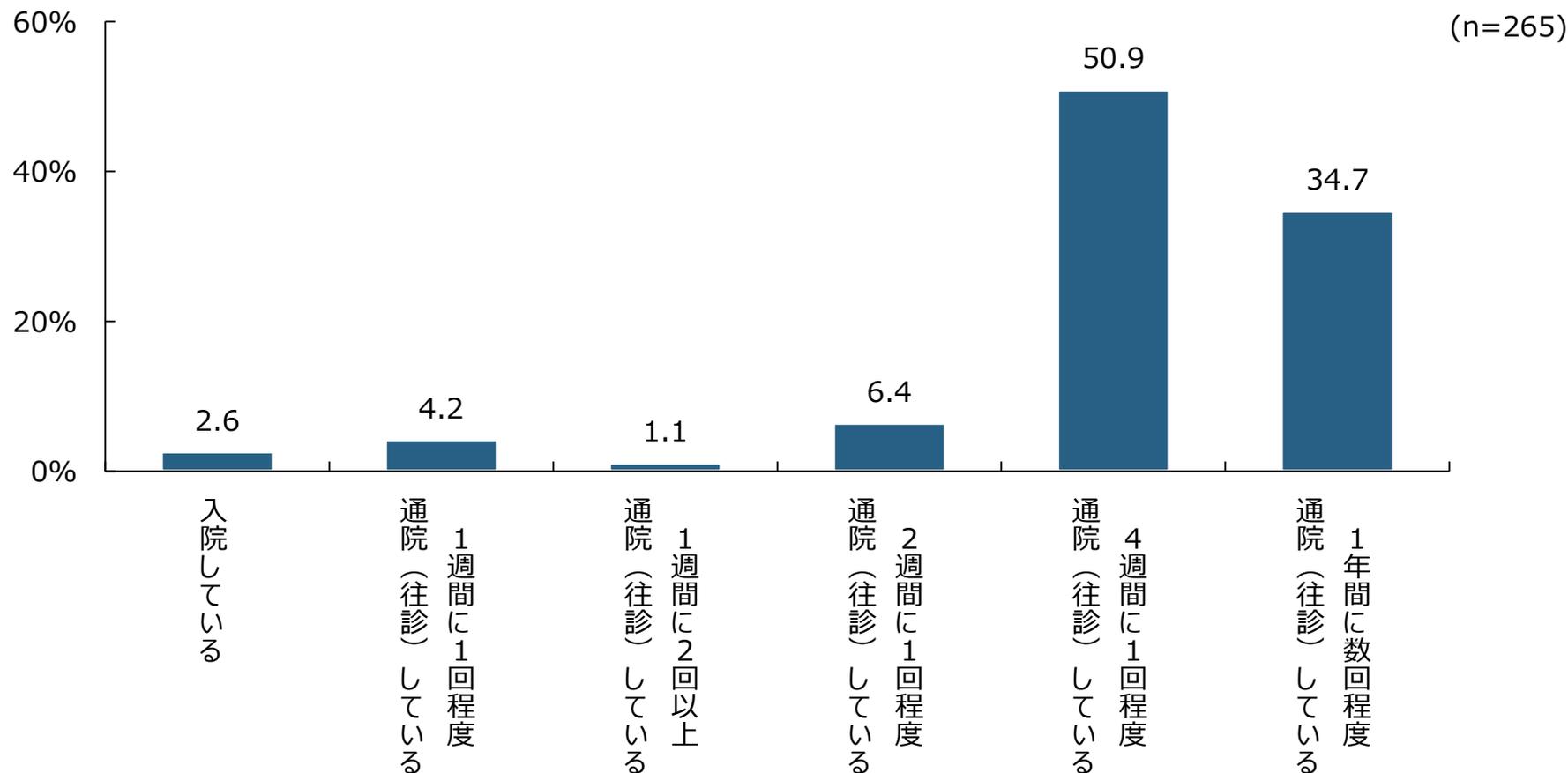
3.4 島内の医療機関のみの利用が8割強

- 現在の医療機関（主に定期的に利用する）の利用状況を尋ねたところ、「島内の医療機関」（83.9%）とする割合が8割強を占めている。残りは「島外の医療機関」が6.1%、「島内外の両方の医療機関」が1.6%となっており、3つを合わせた『医療機関にかかっている』（91.6%）とする割合は9割強となっている。
- 一方、「医療機関にかかっていない」（8.4%）とする割合は1割弱となっている。



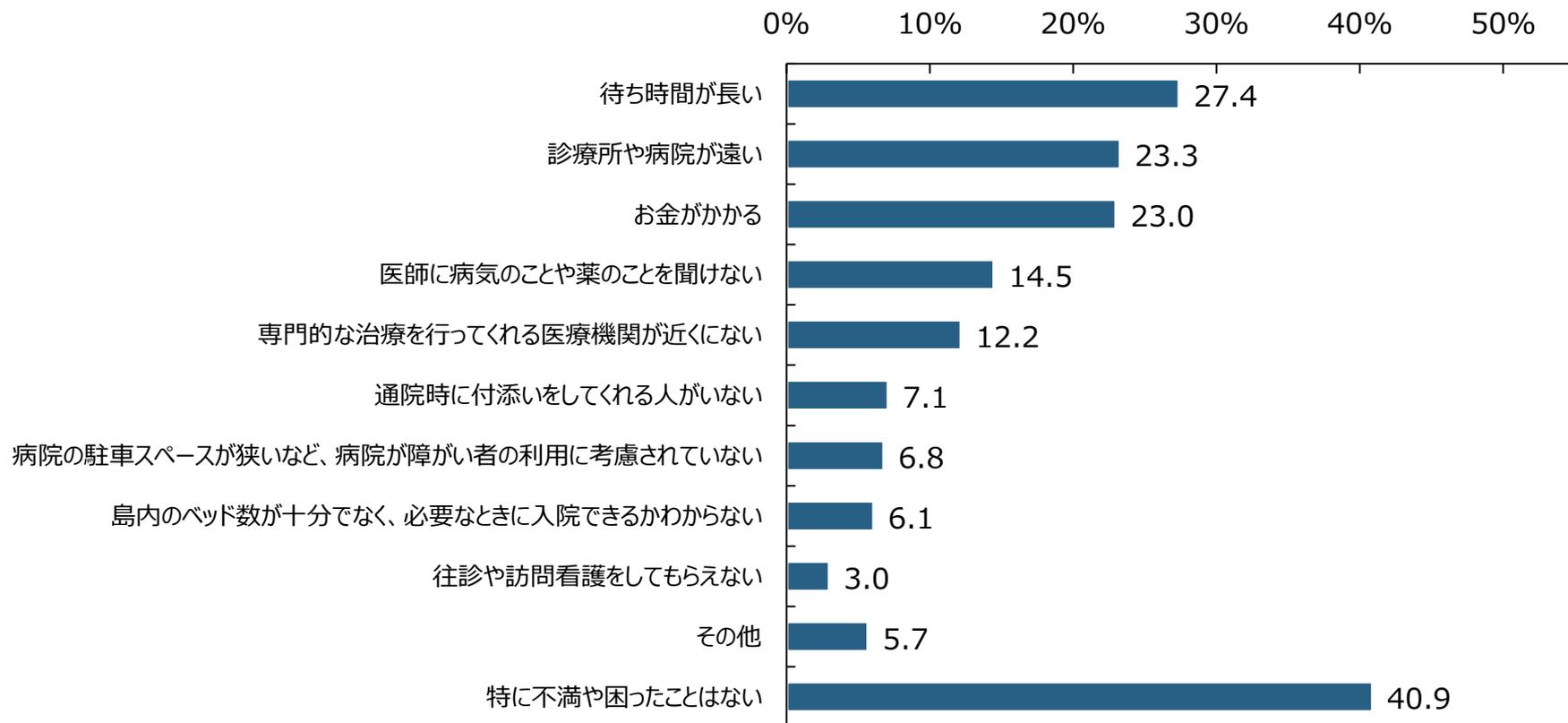
3.5 医療機関の利用頻度は4週間に1回が半数

- 『医療機関にかかっている』とする人に医療機関の利用頻度を尋ねたところ、「4週間に1回程度通院（往診）している」（50.9%）とする割合が約5割で最も高く、次いで「1年間に数回程度通院（往診）している」（34.7%）が3割台半ばとなっている。以下「2週間に1回程度通院（往診）している」（6.4%）、「1週間に1回程度通院（往診）している」（4.2%）、「入院している」（2.6%）などとなっている。



3.6 医療について特に不満や困ったことはないとする割合は約4割

- 医療について困っていることを尋ねたところ（複数回答）、「待ち時間が長い」（27.4%）の割合が最も高く、以下「診療所や病院が遠い」（23.3%）、「お金がかかる」（23.0%）、「医師に病気のことや薬のことを聞けない」（14.5%）、「専門的な治療を行ってくれる医療機関が近くにない」（12.2%）などとなっている。
- 一方、「特に不満や困ったことはない」（40.9%）とする割合が約4割となっている。

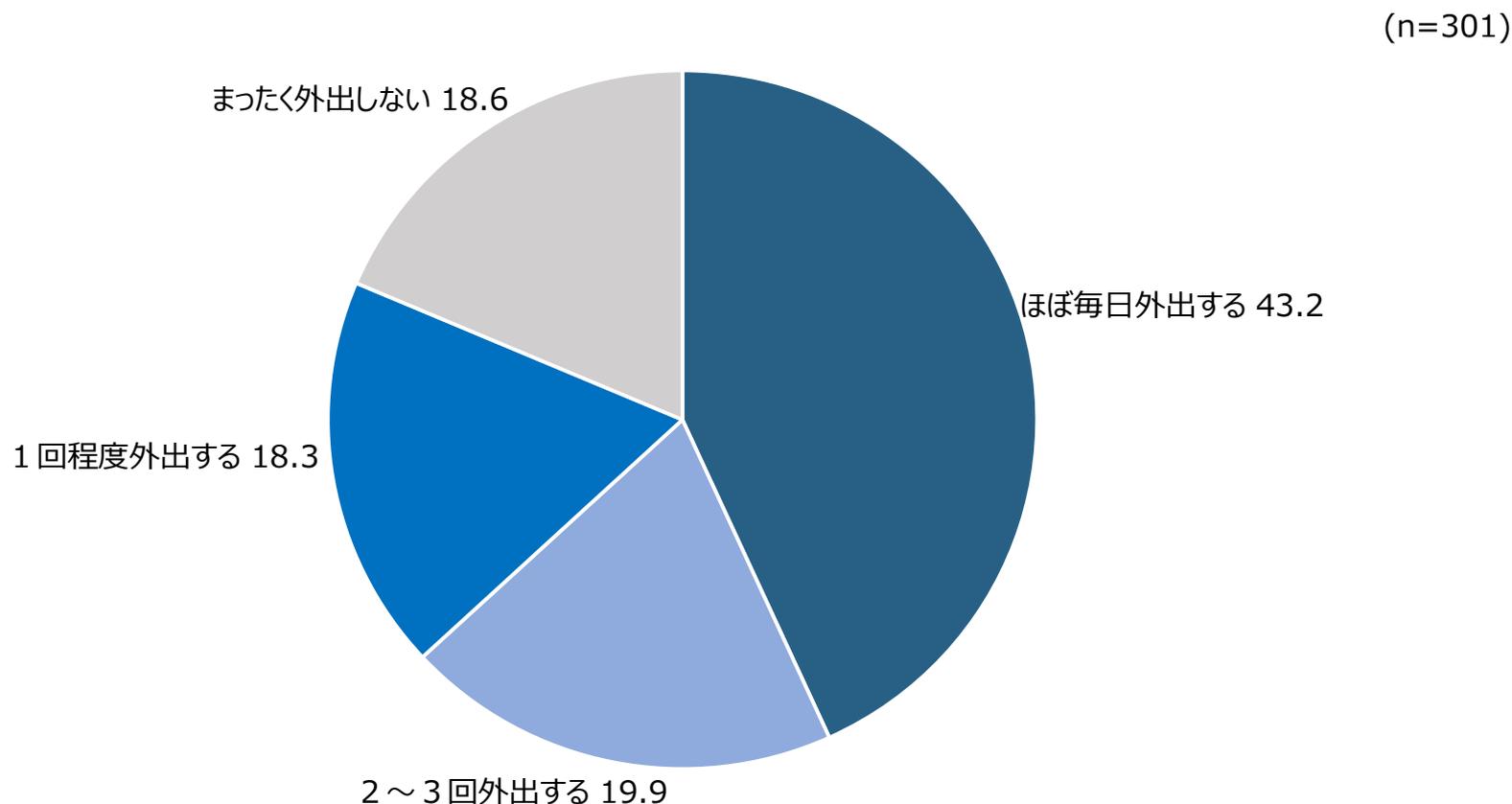


(n=296)

4. 日中活動の状況

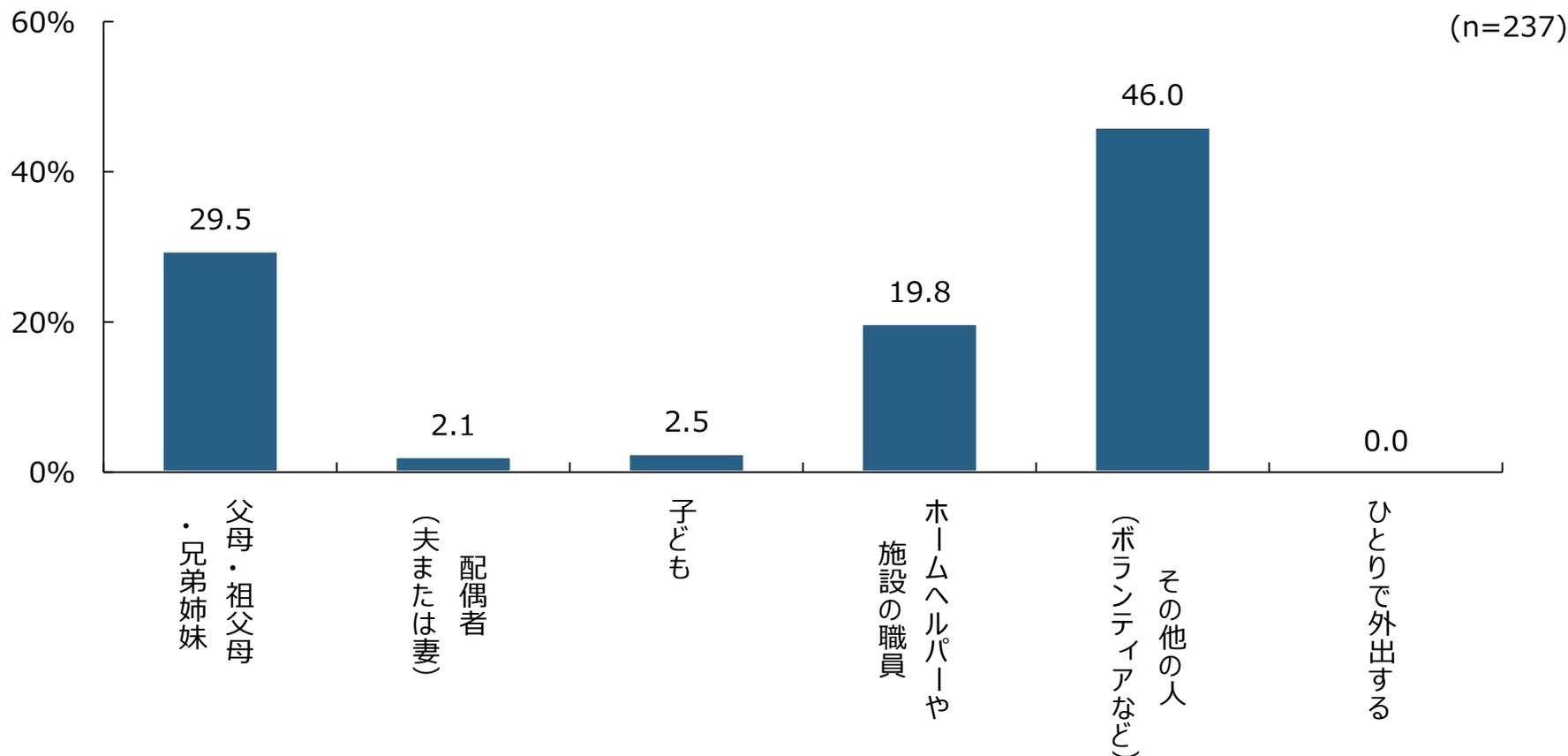
4.1 まったく外出しないは2割弱

- 1週間の外出頻度を尋ねたところ、「ほぼ毎日外出する」（43.2%）とする割合が4割強、「2～3回外出する」（19.9%）が約2割、「1回程度外出する」（18.3%）と「まったく外出しない」（18.6%）がそれぞれ2割弱となっている。
- 「ほぼ毎日外出する」「2～3回外出する」「1回程度外出する」の3つを合わせた『外出する』（81.4%）人の割合は8割強となっている。



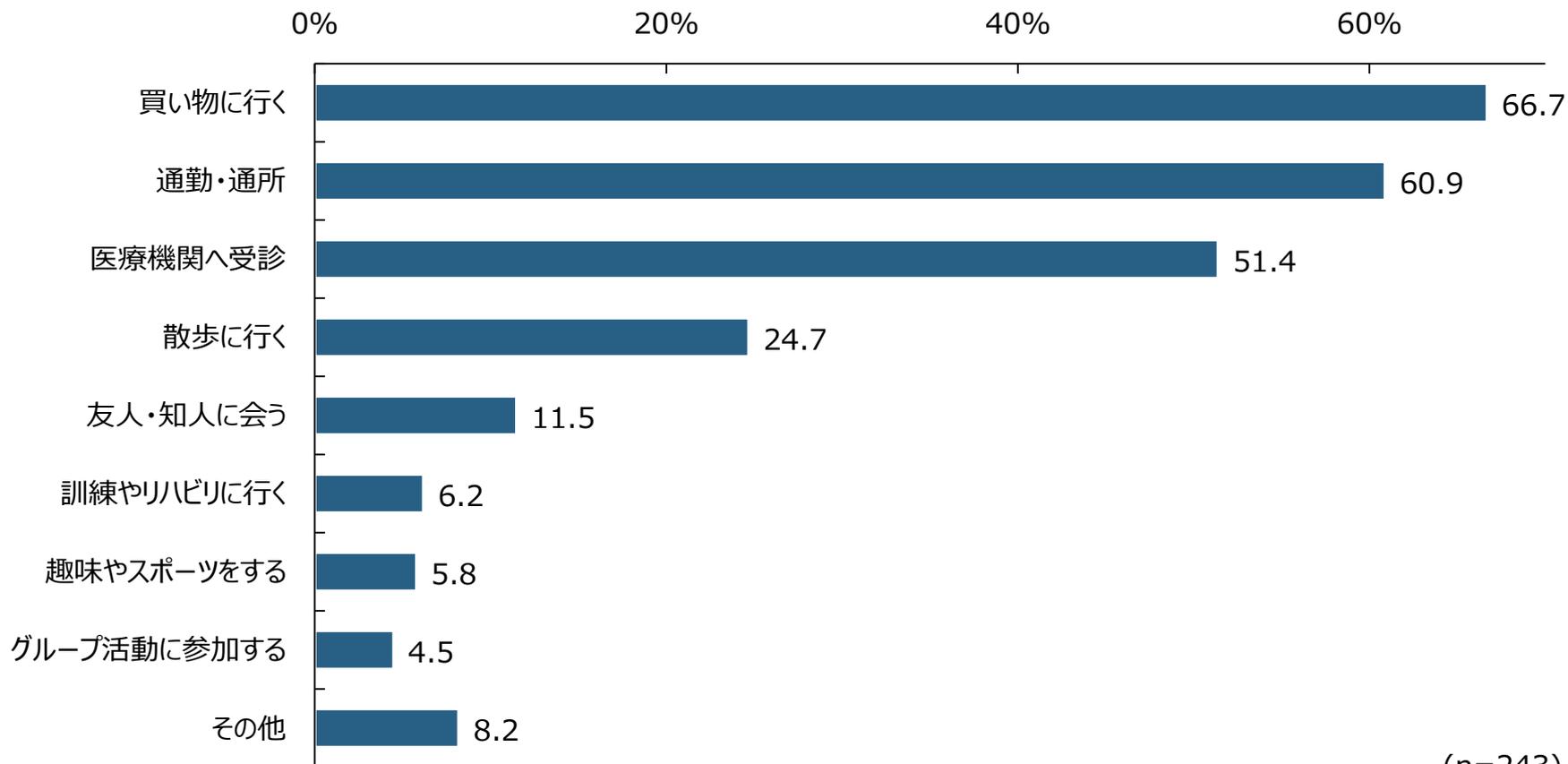
4.2 外出時の同伴者はボランティアなどが多い

- 『外出する』と回答した人に主な同伴者を尋ねたところ、「その他の人（ボランティアなど）」（46.0%）とする割合が4割台半ばで最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟姉妹」（29.5%）が約3割、「ホームヘルパーや施設の職員」（19.8%）が約2割などとなっている。



4.3 外出の目的は買い物と通勤・通所が上位

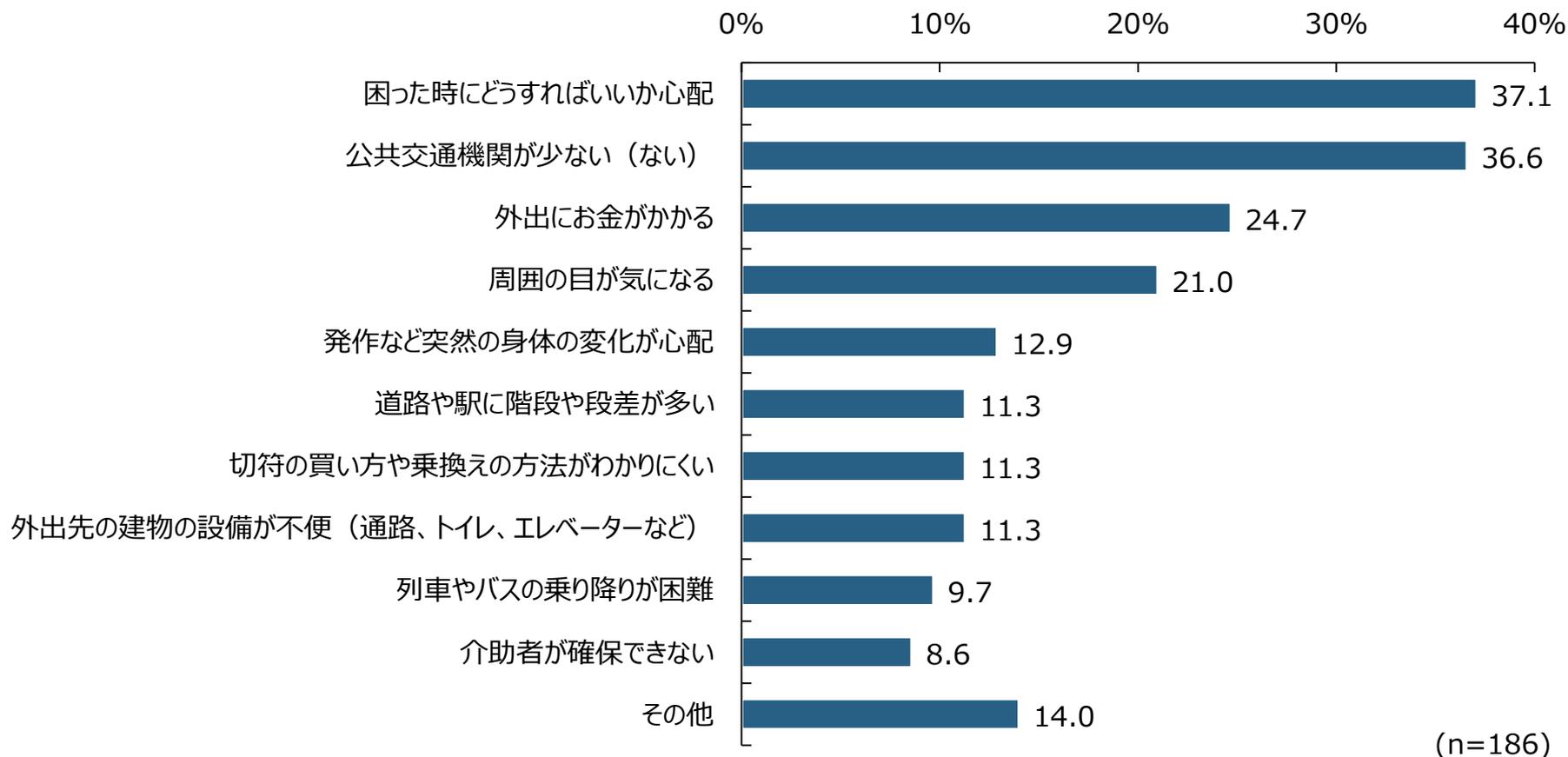
- 『外出する』と回答した人に外出の目的を尋ねたところ（複数回答）、「買い物に行く」（66.7%）の割合が最も高く、以下「通勤・通所」（60.9%）、「医療機関へ受診」（51.4%）、「散歩に行く」（24.7%）などとなっている。



(n=243)

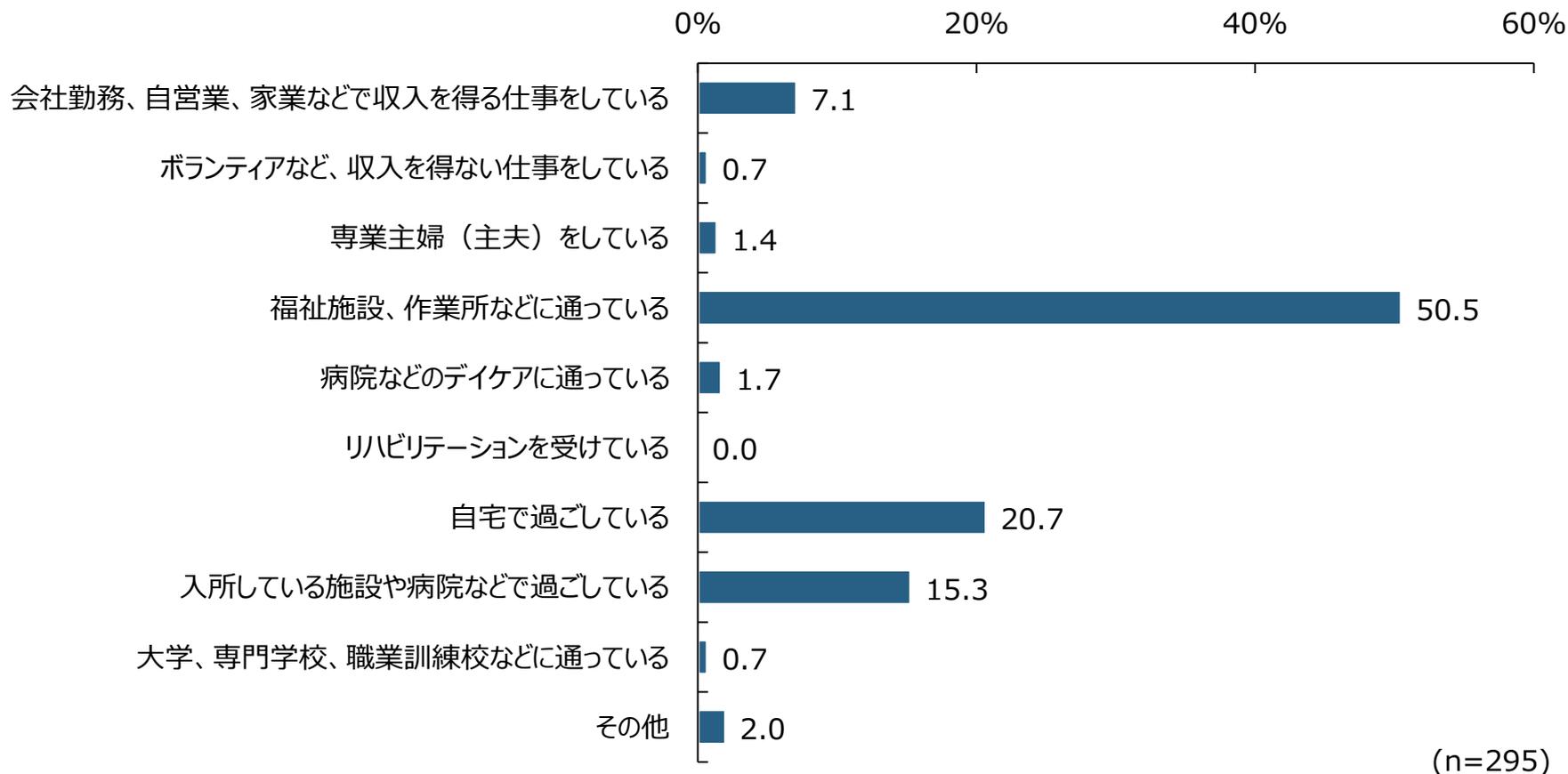
4.4 外出時の問題点は交通機関と困った時の対処法が上位

- 『外出する』と回答した人に外出時に困ることを尋ねたところ（複数回答）、「困った時にどうすればいいか心配」（37.1%）と「公共交通機関が少ない（ない）」（36.6%）の割合がともに高く、以下「外出にお金がかかる」（24.7%）、「周囲の目が気になる」（21.0%）などとなっている。
- その他（14.0%）の具体的な内容としては「多動で職員介助に迷惑をかける」「今は親がいるがいなくなった場合」「言葉が通じない」「タクシー代がかかる。家から町まで遠く外出困難」などが挙げられている。



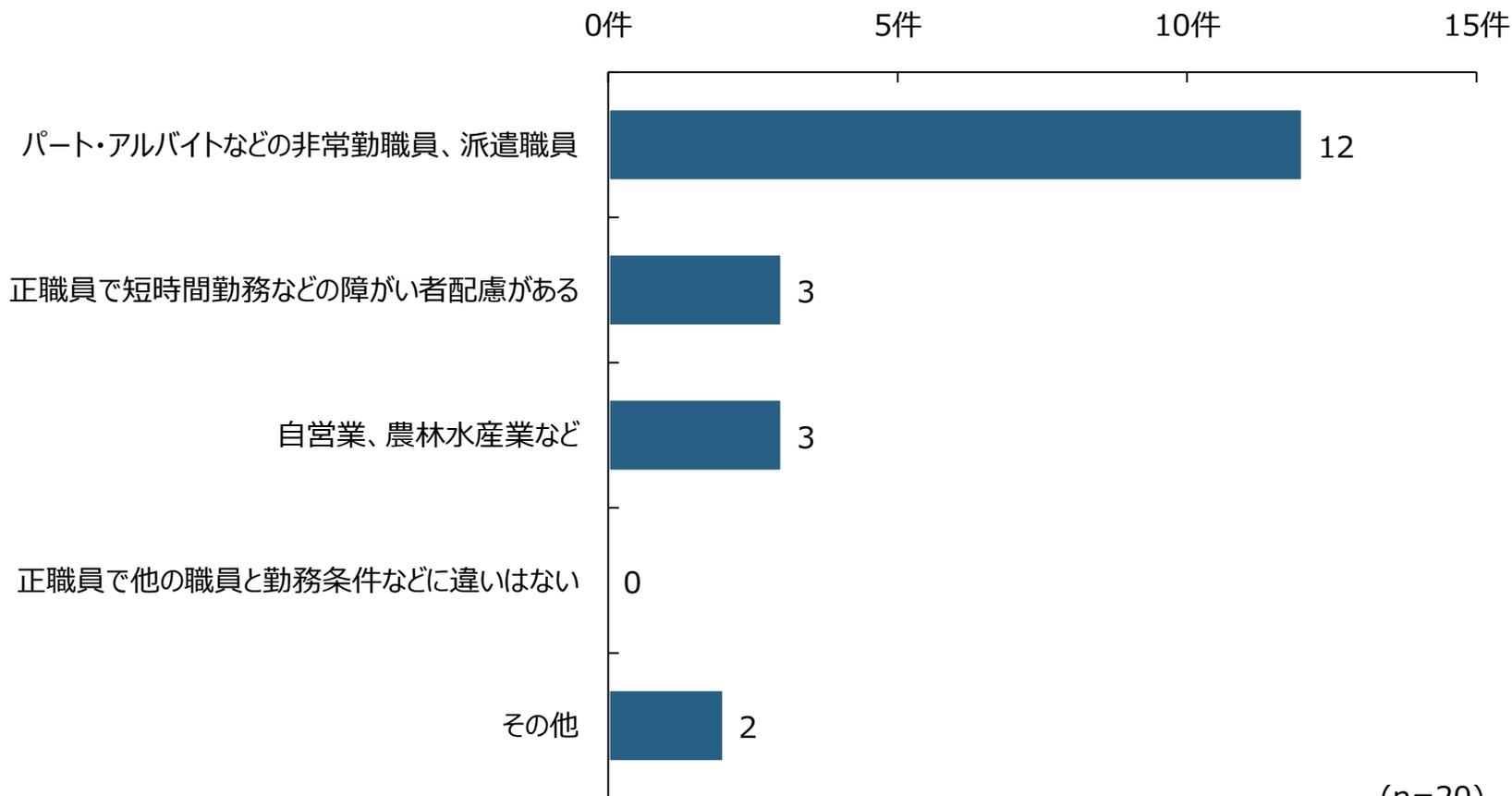
4.5 日中の会社勤務等は1割弱

- 平日の日中の過ごし方を尋ねたところ、「福祉施設、作業所などに通っている」（50.5%）とする割合が5割強で最も高くなっている。以下「自宅で過ごしている」（20.7%）、「入所している施設や病院などで過ごしている」（15.3%）などとなっている。
- 一方、「会社勤務、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」（7.1%）とする割合は1割弱にとどまっている。



4.6 働いている人はパートやアルバイトなどが大半

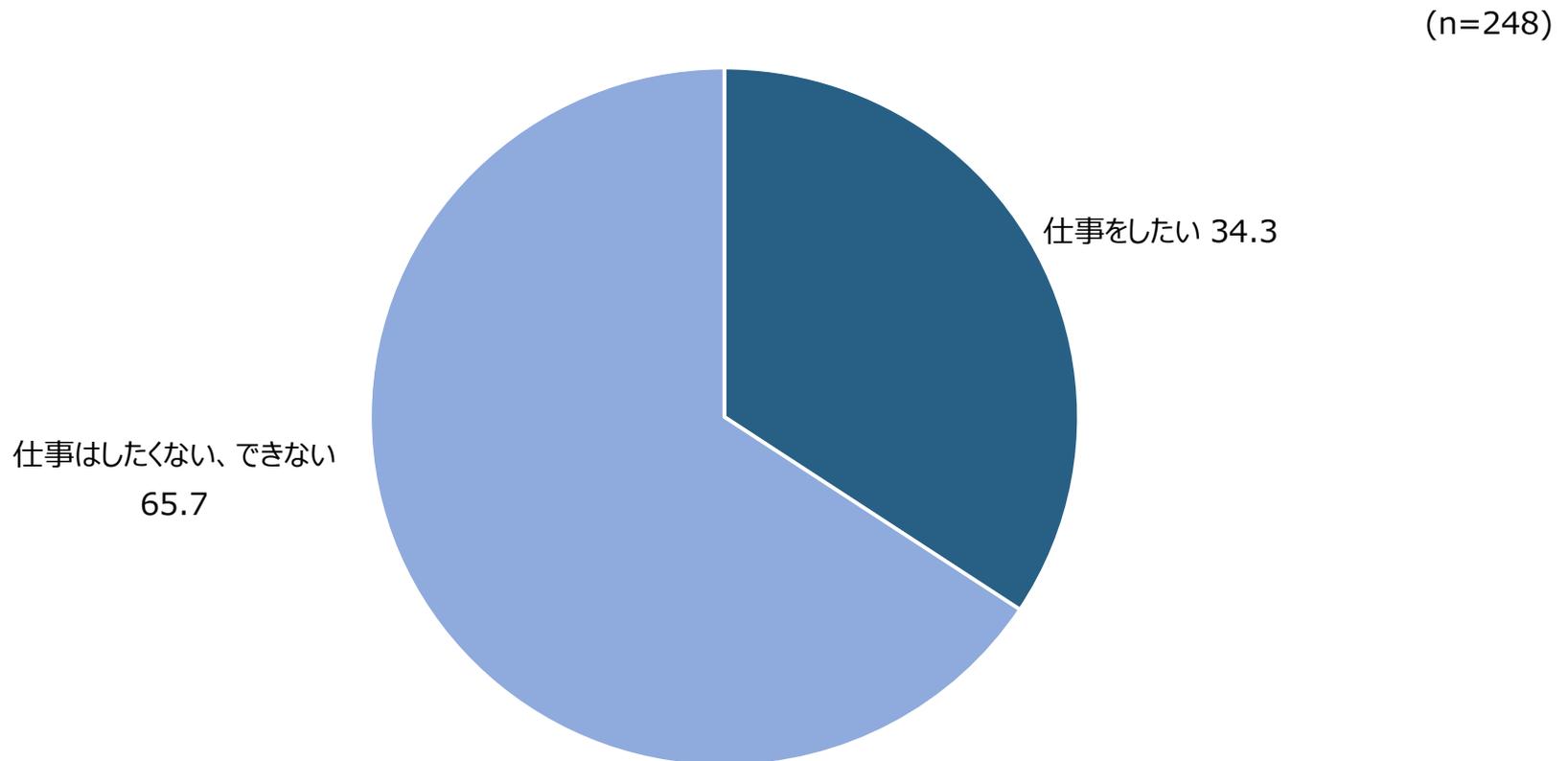
- 『会社勤務、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている』と回答した人に勤務形態を尋ねたところ、「パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員」（12件）が特に多く、以下「正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある」「自営業、農林漁業など」（各3件）などとなっている。



(n=20)

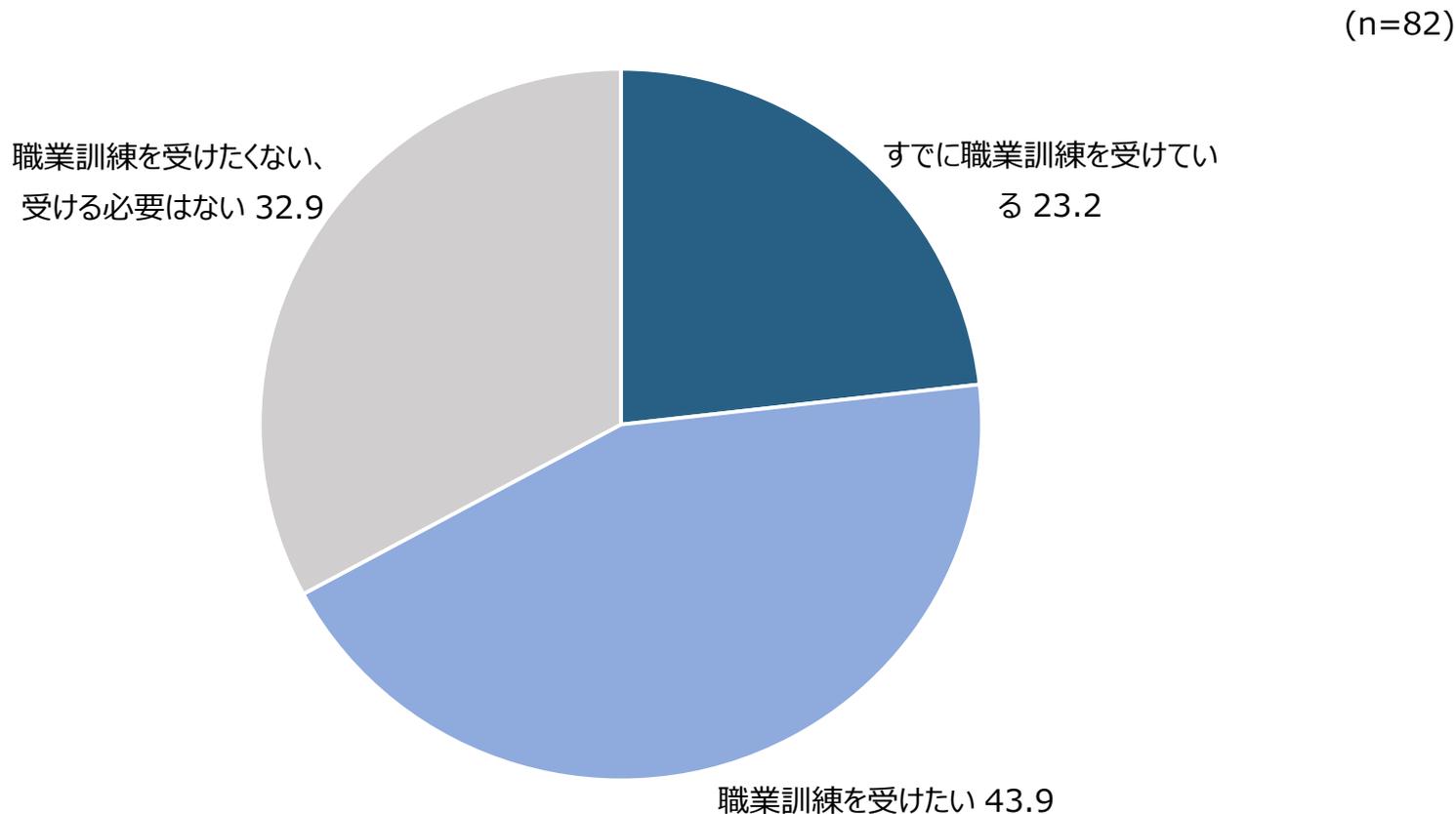
4.7 仕事をしたい人は3割台半ば

- 今後、収入を得る仕事をしたいか否かを尋ねたところ、「仕事をしたい」（34.3%）とする割合が3割台半ばに対し、「仕事をしたくない、できない」（65.7%）とする割合が6割台半ばとなっている。



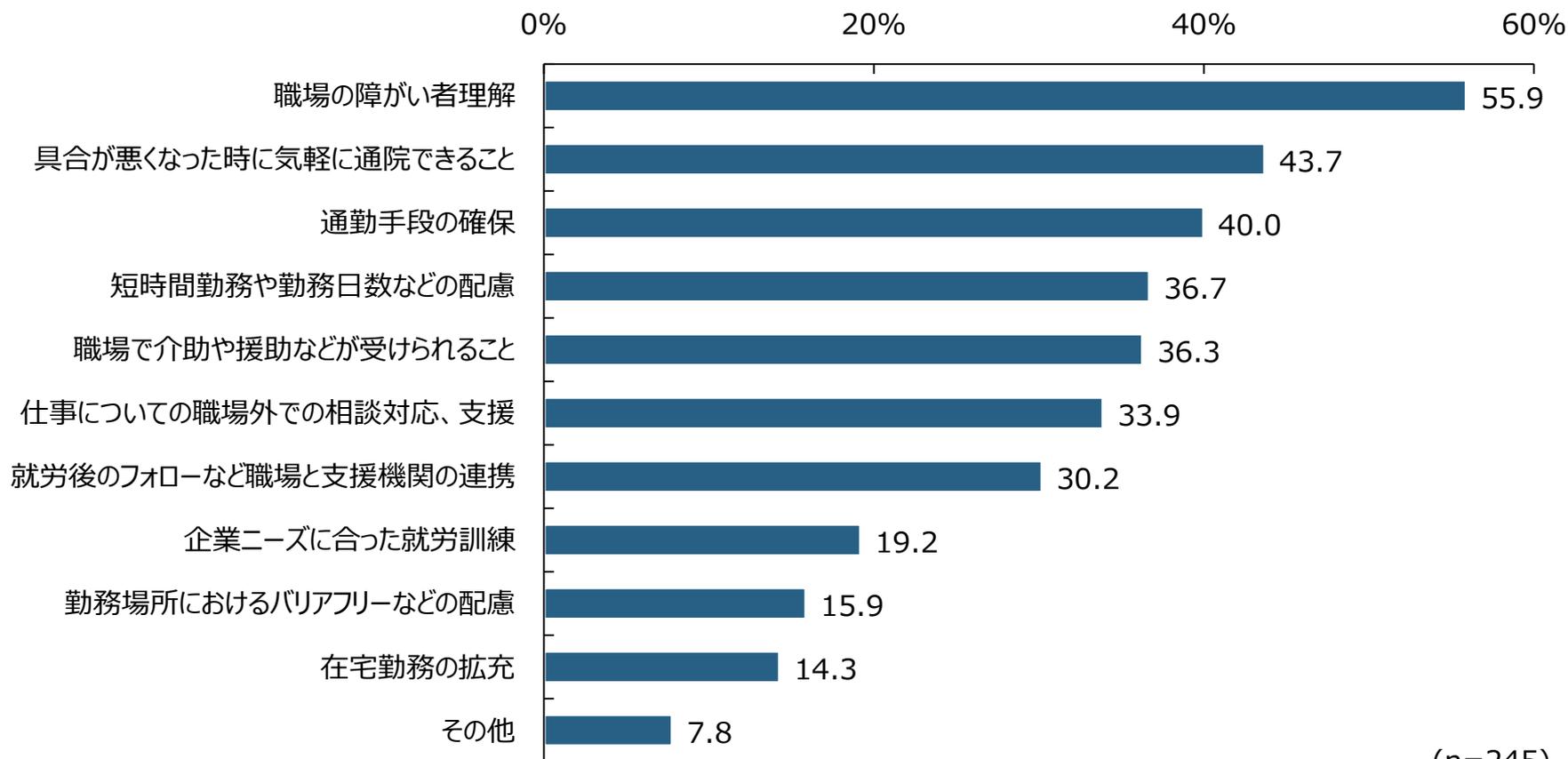
4.8 すでに職業訓練を受けている人が2割強

- 「仕事をしたい」と回答した人に職業訓練（障がい者の雇用・就業を助けるため、希望する職業に必要なスキルと技術（例：パソコン、店舗業務など）を身につけること）の受講意向を尋ねたところ、「すでに職業訓練を受けている」（23.2%）とする割合が2割強、「職業訓練を受けたい」（43.9%）が4割強となっている。
- 一方、残りの3割強は「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」（32.9%）としている。



4.9 障がい者の就労支援には職場の理解が最上位

- 障がい者の就労支援として必要だと思うことを尋ねたところ（複数回答）、「職場の障がい者理解」（55.9%）の割合が5割台半ばで最も高く、以下「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」（43.7%）、「通勤手段の確保」（40.0%）、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」（36.7%）、「職場で介助や援助などが受けられること」（36.3%）、「仕事についての職場外での相談対応、支援」（33.9%）などとなっている。

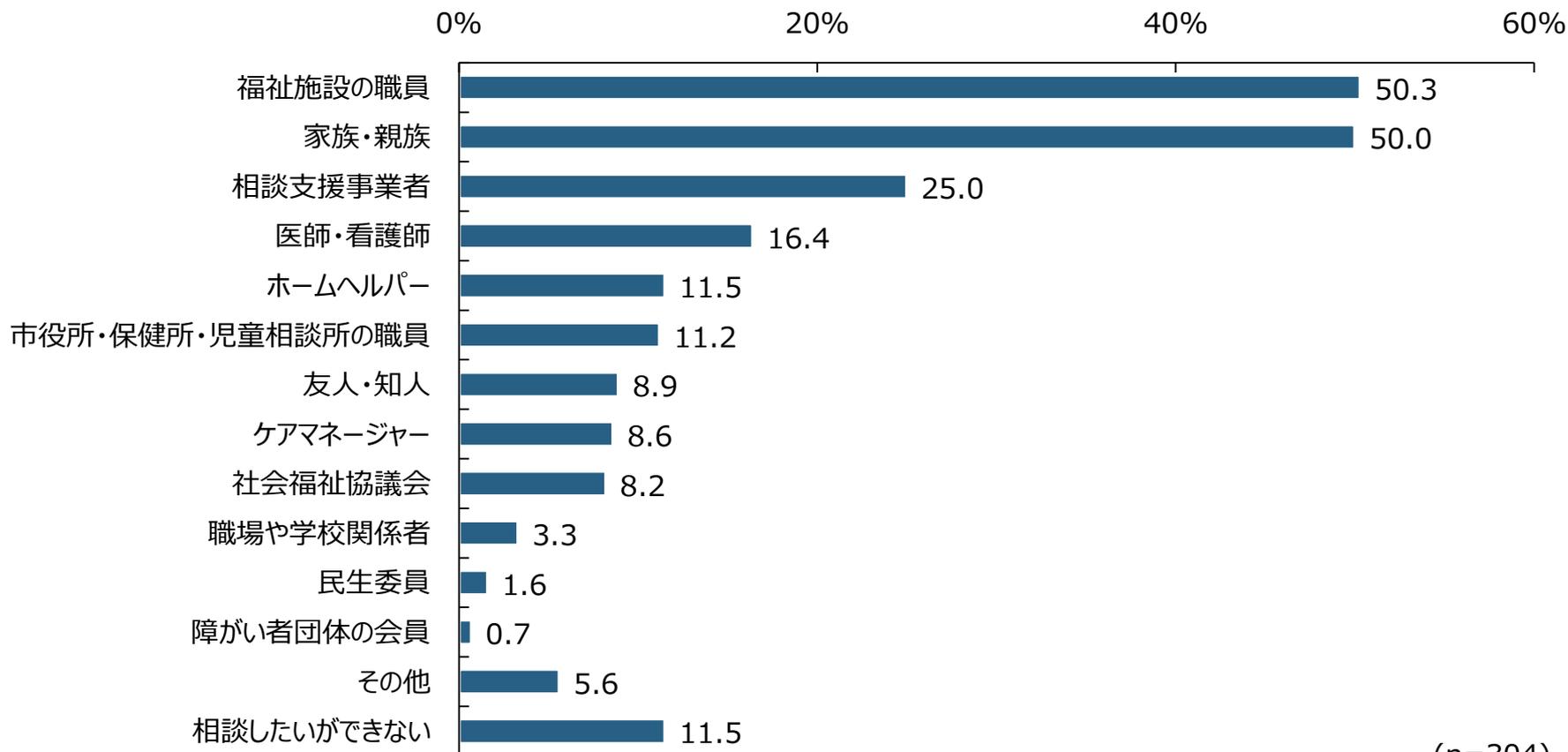


(n=245)

5. 普段の相談の状況

5.1 悩みや困ったことの相談相手は福祉施設の職員と家族・親族

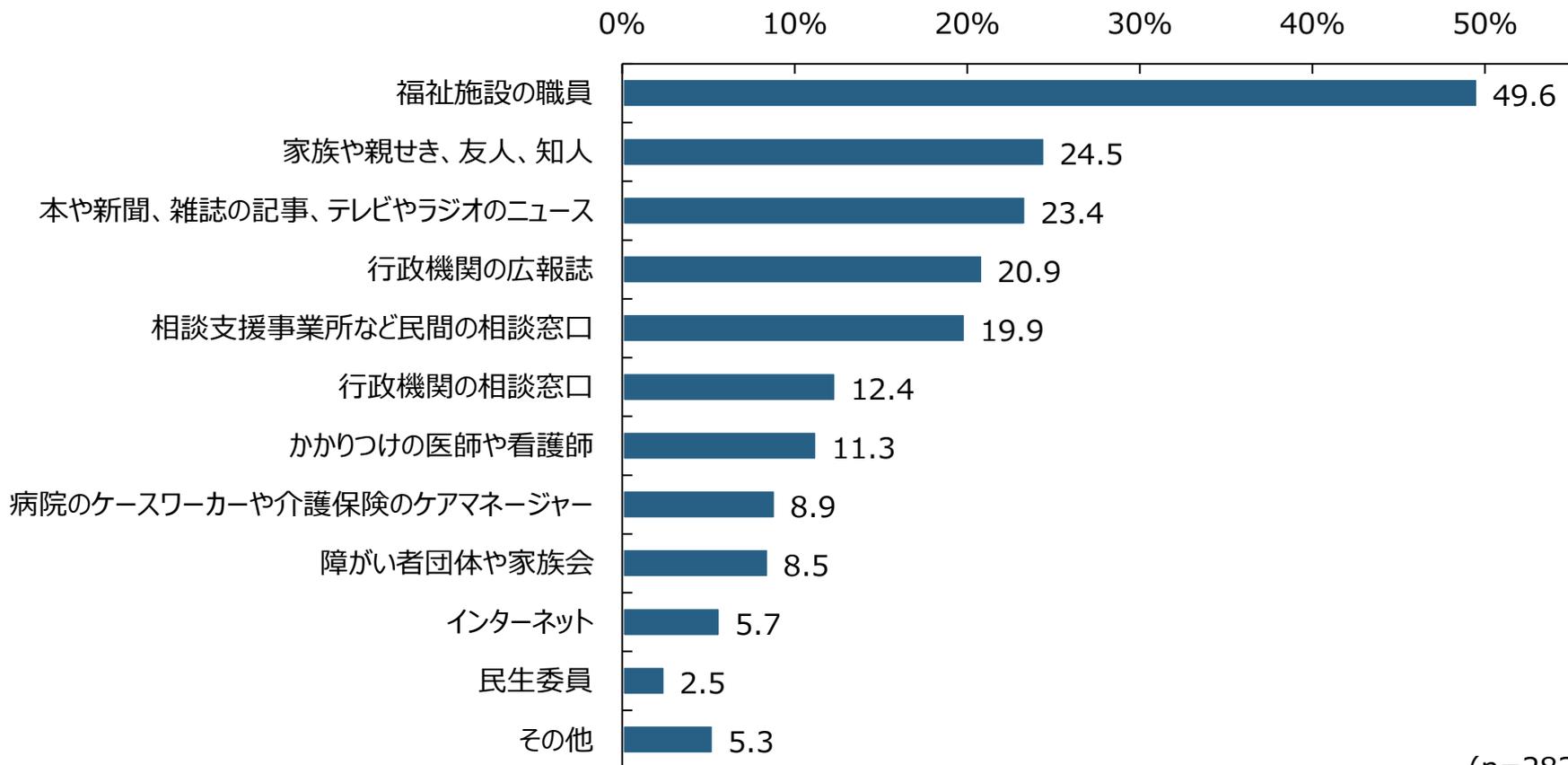
- 普段、悩みや困ったことを誰に相談するかを尋ねたところ（複数回答）、「福祉施設の職員」（50.3%）と「家族・親族」（50.0%）との割合がそれぞれ約5割でともに高くなっている。以下「相談支援事業者」（25.0%）、「医師・看護師」（16.4%）、「ホームヘルパー」（11.5%）、「市役所・保健所・児童相談所の職員」（11.2%）などとなっている。
- 一方、「相談したいができない」（11.5%）の割合は1割強となっている。相談できない理由としては「どこ（誰）に相談していいかわからない」「相談しても満足いく回答が得られない」などの回答割合が高くなっている。



(n=304)

5.2 情報の入手先は福祉施設の職員が約5割

- 障がいのことや福祉サービスなどに関する情報の入手先を尋ねたところ（複数回答）、「福祉施設の職員」（49.6%）とする割合が約5割で最も高く、以下「家族や親せき、友人、知人」（24.5%）、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」（23.4%）、「行政機関の広報誌」（20.9%）、「相談支援事業所など民間の相談窓口」（19.9%）などとなっている。

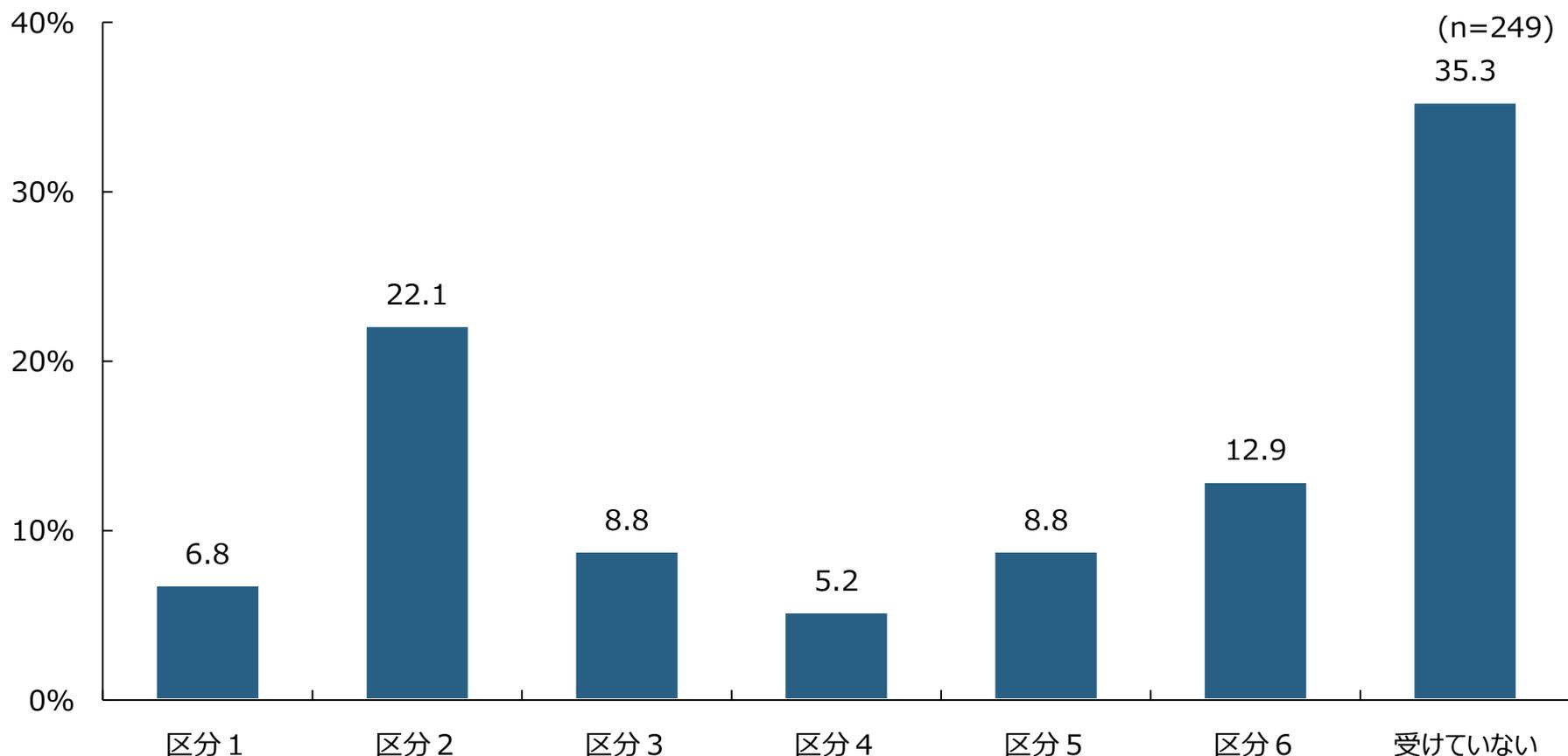


(n=282)

6. 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用予定

6.1 障がい者支援区分の認定を受けている人は6割台半ば

- 障害支援区分の認定を受けているか否かを尋ねたところ、「受けていない」(35.3%)とする割合が3割台半ばで最も高くなっている。
- 一方、障害支援区分の認定を受けている人では「区分2」(22.1%)、「区分6」(12.9%)、「区分3」「区分5」(各8.8%)、「区分1」(6.8%)、「区分4」(5.2%)の順となっている。



6.2 居宅介護や施設入所支援の利用率は2割強

- 【A.訪問による支援】の利用状況を尋ねたところ、『①居宅介護（ホームヘルプ）』について『利用している』との回答割合は21.5%となっている。また、今後の利用予定について「今よりも利用を増やす予定」（2.8%）と「今と同じくらい利用する予定」（18.8%）と「今よりも利用を減らす予定」（0.9%）を合わせた回答割合（以下『利用予定がある』）は22.5%と同程度となっている。
 - 【B.入所者の支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑥施設入所支援』について『利用している』との回答割合は21.9%となっている。今後の利用予定で『利用予定がある』の回答割合は19.5%となっており、需要量の増減見通しは2.4ポイント低下している。
- ※需要量（見込量）の増減見通しの表示は、『利用予定がある』-『利用している』が5.0%以上：「↑」、『利用予定がある』-『利用している』が▲2.0%以上5.0%未満：「→」、『利用予定がある』-『利用している』が▲2.0%未満：「↓」とした

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需 増 減 量 （見 込 量）
		利 用 し て い る	利 用 し て い な い	増 や す 予 定 （ 甲 ）	今 よ り も 同 じ く ら い （ 乙 ）	減 ら す 予 定 （ 丙 ）	（ 甲 + 乙 + 丙 ） 利 用 予 定 が あ る	利 用 予 定 が な い	
A. 訪問による支援	①居宅介護（ホームヘルプ） (n=242) (n=213)	21.5	78.5	2.8	18.8	0.9	22.5	77.5	→
	②重度訪問介護 (n=227) (n=204)	3.5	96.5	1.0	2.5	0.0	3.5	96.6	→
	③同行援護 (n=223) (n=198)	4.0	96.0	1.5	3.0	0.0	4.5	95.5	→
	④行動援護 (n=221) (n=197)	3.2	96.8	3.0	1.0	0.0	4.0	95.9	→
	⑤重度障害者等包括支援 (n=219) (n=197)	2.3	97.7	1.5	2.0	0.0	3.5	96.4	→
B. 入所者の支援	⑥施設入所支援 (n=247) (n=200)	21.9	78.1	19.5	0.0	0.0	19.5	80.5	↓

6.3 短期入所と共同生活援助の利用が増える見込み

- 【C. 昼間の生活支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑦短期入所（ショートステイ）』について『利用している』との回答割合は7.0%と1割に満たない。今後の利用予定で『利用予定がある』の回答割合は12.0%となっており、需要量の増減見通しは5.0ポイント上昇している。
- 【D. 自立した生活のための支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑩共同生活援助（グループホーム）』について『利用している』との回答割合は15.7%となっている。今後の利用予定で『利用予定がある』の回答割合は21.2%となっており、需要量の増減見通しは5.5ポイント上昇している。

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需 増 減 量 見 通 し （ 見 込 量 ）
		利 用 し て い る	利 用 し て い な い	増 や 予 定 （ 甲 ）	今 よ り も 利 用 を す る 予 定 （ 乙 ）	利 用 と 同 じ 予 定 （ 乙 ）	減 ら 予 定 （ 丙 ）	今 よ り も 利 用 を す る 予 定 （ 丙 ）	
C. 昼間の生活 の支援	⑦短期入所（ショートステイ） (n=228) (n=199)	7.0	93.0	7.0	4.5	0.5	12.0	87.9	↑
	⑧療養介護 (n=222) (n=195)	2.3	97.7	1.5	2.1	0.5	4.1	95.9	→
	⑨生活介護（通所） (n=230) (n=204)	17.0	83.0	2.5	15.7	0.5	18.7	81.4	→
D. 自立した生活 のための支援	⑩自立生活援助 (n=227) (n=196)	4.8	95.2	6.1	2.6	0.5	9.2	90.8	→
	⑪共同生活援助 （グループホーム） (n=229) (n=198)	15.7	84.3	21.2	0.0	0.0	21.2	78.8	↑

6.4 就労継続支援(A型、B型)の利用率は4割台

- 【E.自立した生活のための訓練や就労の支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑭就労継続支援（A型、B型）』について『利用している』との回答割合は41.1%となっている。今後の利用予定で『利用予定がある』とする回答割合は45.2%となっており、需要量の増減見通しは4.1ポイント上昇している。また、『⑫自立訓練（機能訓練、生活訓練）』と『⑬就労移行支援』は、今後の利用予定について『利用予定がある』の回答割合が、それぞれ現状よりも5ポイント以上上昇している。
- 【F.補装具による支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑯補装具の交付・修理』について『利用している』との回答割合は13.3%となっている。

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需 増減 見通し （見込 量）
		利用している	利用していない	増やす予定（甲）	今より利用する予定（乙）	減らす予定（丙）	（甲+乙+丙）利用予定がある	利用予定がない	
E. 自立した生活のための訓練や就労の支援	⑫自立訓練（機能訓練、生活訓練） (n=229) (n=192)	7.4	92.6	7.8	4.7	0.0	12.5	87.5	↑
	⑬就労移行支援 (n=225) (n=191)	5.3	94.7	6.3	4.7	0.5	11.5	88.5	↑
	⑭就労継続支援（A型、B型） (n=241) (n=204)	41.1	58.9	5.9	36.8	2.5	45.2	54.9	→
	⑮就労定着支援 (n=223) (n=186)	2.2	97.8	4.3	2.2	0.0	6.5	93.5	→
F. 補装具による支援	⑯補装具の交付・修理 (n=226) (n=197)	13.3	86.7	15.7	0.0	0.0	15.7	84.3	→

6.5 計画相談支援の利用率は6割弱

- 【G.相談支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑰計画相談支援』について『利用している』との回答割合は57.9%となっている一方で、「⑱地域移行支援」と「⑲地域定着支援」について『利用している』との回答はそれぞれ1割に満たない。

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需要量（見込量） 増減見通し
		利用している	利用していない	増やす予定（甲）	今よりも同じくらい（乙）	減らす予定（丙）	（甲+乙+丙）利用予定がある	利用予定がない	
G. 相談支援	⑰計画相談支援 (n=235) (n=180)	57.9	42.1	55.0	0.0	0.0	55.0	45.0	↓
	⑱地域移行支援 (n=223) (n=193)	5.8	94.2	12.4	0.0	0.0	12.4	87.6	↑
	⑲地域定着支援 (n=225) (n=195)	7.6	92.4	13.3	0.0	0.0	13.3	86.7	↑
H. その他の支援	⑳地域活動支援 (n=223) (n=196)	3.6	96.4	4.1	3.6	0.0	7.7	92.3	→
	㉑生活サポート事業 (n=224) (n=198)	7.6	92.4	5.6	6.6	0.0	12.2	87.9	→
	㉒日常生活用具の給付 (n=222) (n=198)	5.9	94.1	9.1	0.5	0.0	9.6	90.4	→
	㉓コミュニケーション支援 (n=228) (n=197)	1.3	98.7	3.0	0.5	0.0	3.5	96.4	→
	㉔移動支援 (n=230) (n=199)	5.2	94.8	5.0	3.0	0.5	8.5	91.5	→

6.6 精神障がい者医療費助成と障がい者通所交通費助成の利用率は4割弱

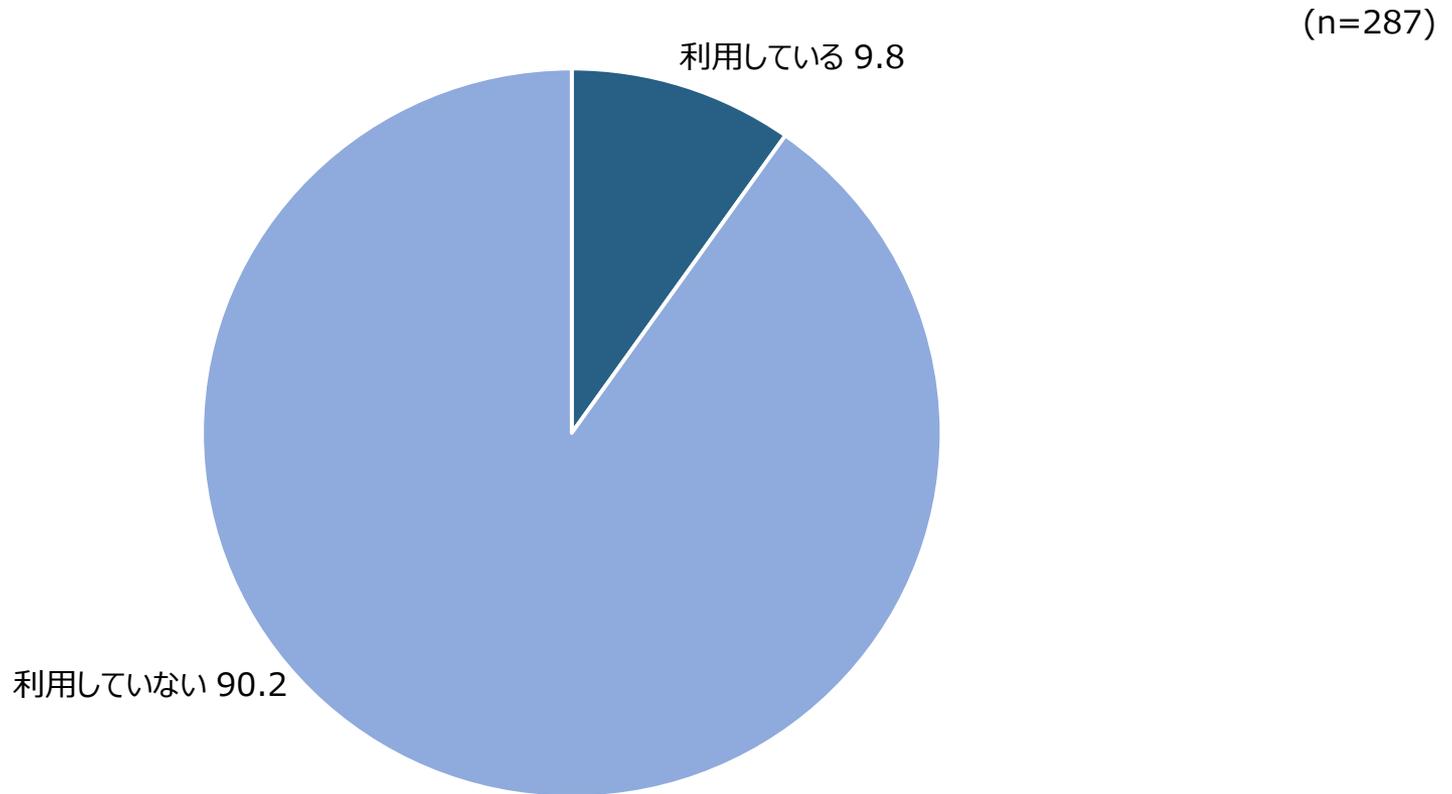
- また、【H.その他の支援】の利用状況を尋ねたところ、『㉙心身障がい者福祉タクシー事業』について『利用している』との回答割合は17.3%となっている。また、『㉚精神障がい者医療費助成』（37.6%）と『障がい者通所交通費助成』（37.0%）を『利用している』とする回答割合はそれぞれ4割弱となっており、『㉚精神障がい者医療費助成』は今後の利用も上昇見込みである。

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数		利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需 増減 見通し （見込 量）
			利 用 し て い る	利 用 し て い な い	増 や す 予 定 （ 甲 ）	今 よ り も 利 用 を （ 乙 ）	利 用 と 同 じ 予 定 （ 乙 ）	減 ら す 予 定 （ 丙 ）	今 よ り も 利 用 を （ 丙 ）	
H. その他の支援	㉕日中一時支援	(n=229) (n=200)	4.8	95.2	4.0	3.5	0.0	7.5	92.5	→
	㉖訪問入浴	(n=229) (n=201)	1.7	98.3	2.0	2.0	0.5	4.5	95.5	→
	㉗自動車運転免許取得助成	(n=217) (n=187)	0.9	99.1	2.7	0.0	0.0	2.7	97.3	→
	㉘自動車改造費の助成	(n=215) (n=185)	1.4	98.6	2.7	0.0	0.0	2.7	97.3	→
	㉙心身障がい者 福祉タクシー事業	(n=225) (n=189)	17.3	82.7	19.6	0.0	0.0	19.6	80.4	→
	㉚精神障がい者医療費助成	(n=234) (n=186)	37.6	62.4	34.9	11.0	0.0	45.9	64.0	↑
	㉛障がい者通所交通費助成	(n=230) (n=185)	37.0	63.0	37.3	2.2	0.0	39.5	60.5	→
	㉜障がい者通院交通費	(n=216) (n=187)	5.1	94.9	6.4	0.5	0.0	6.9	93.0	→

7. 介護保険サービスの利用状況

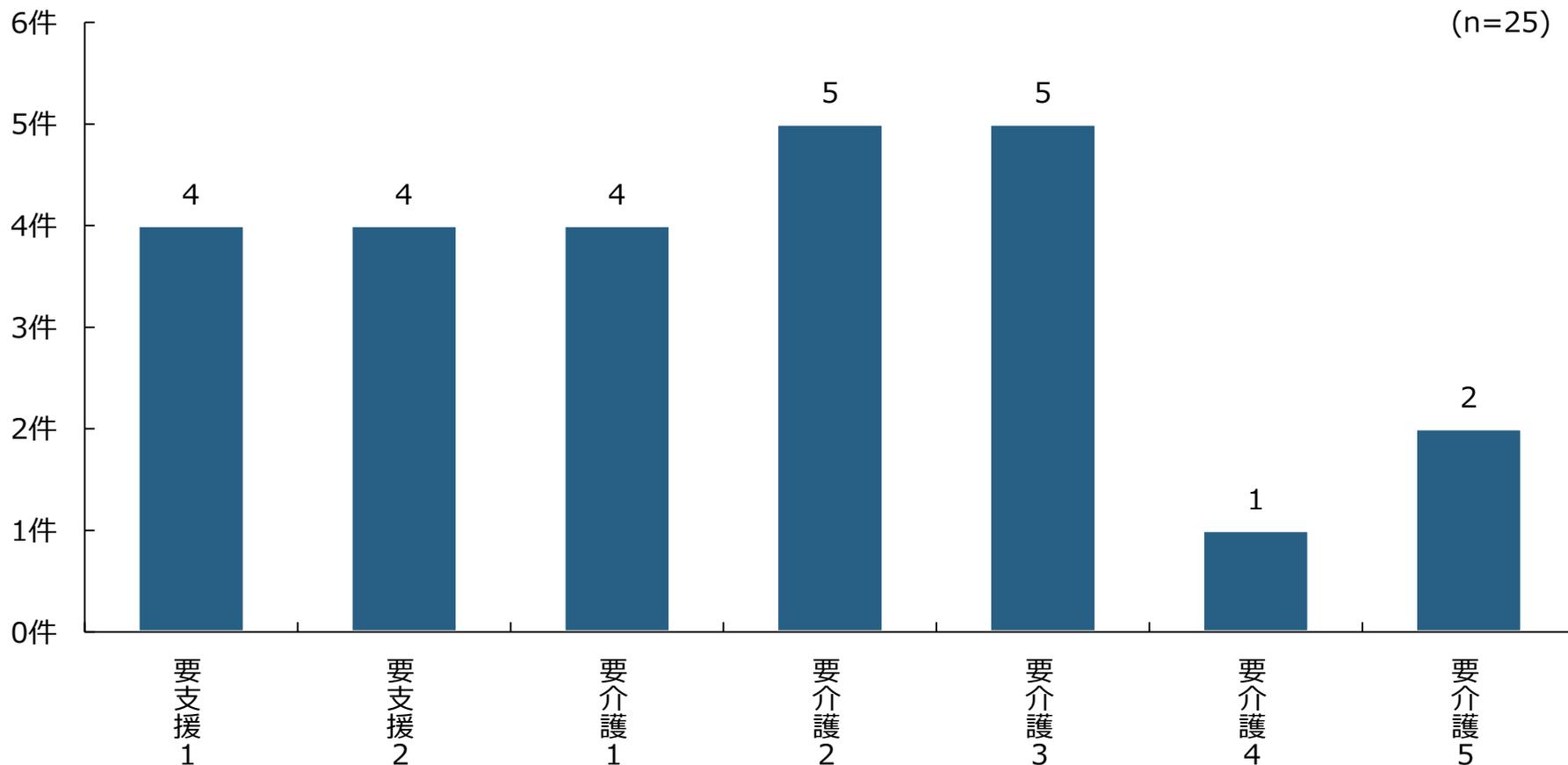
7.1 介護保険によるサービス利用者は約1割

- 介護保険によるサービスの利用の有無を尋ねたところ、「利用している」(9.8%)とする割合が約1割に対し、「利用していない」(90.2%)とする割合が約9割となっている。



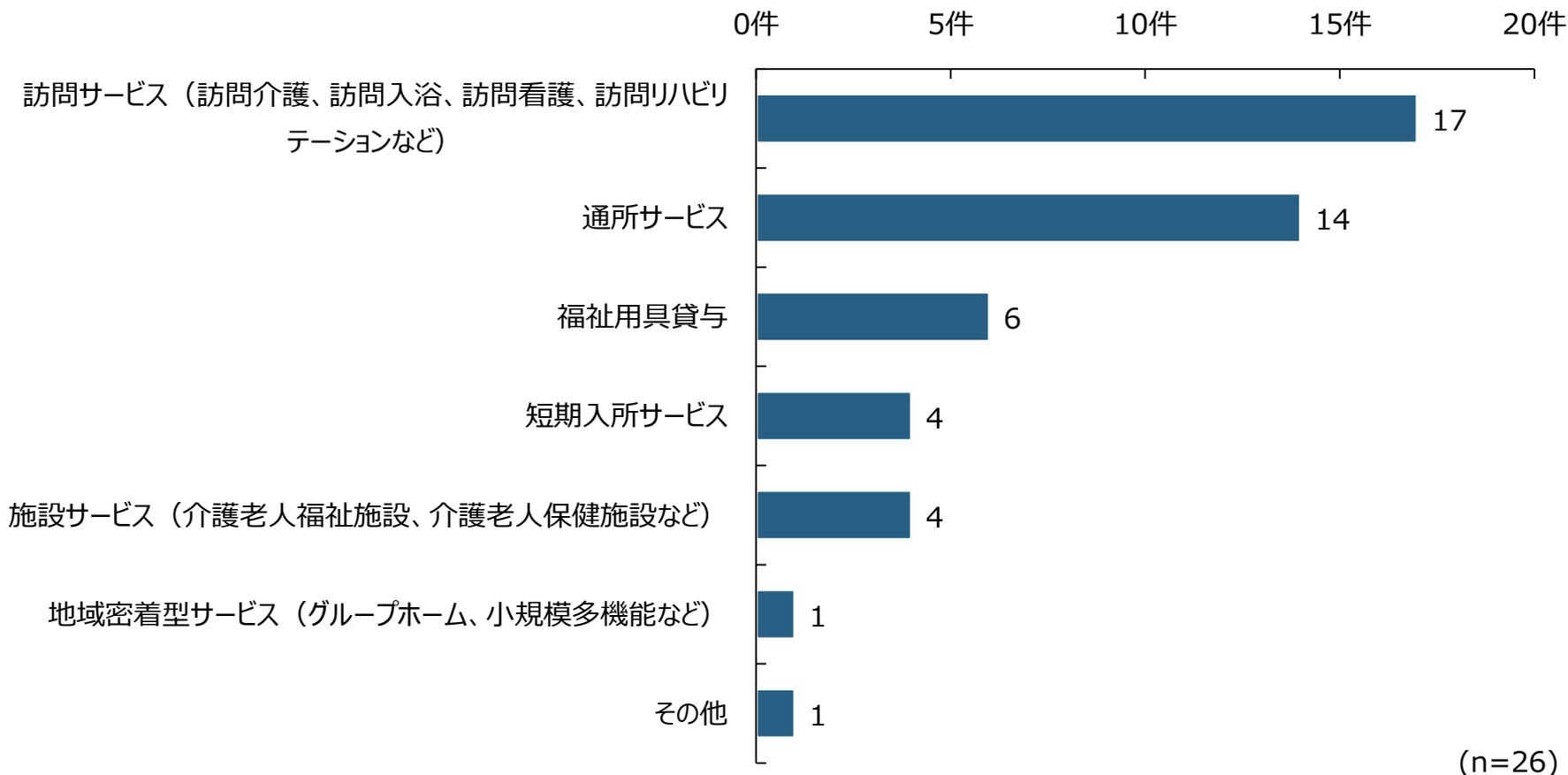
7.2 要支援1～要介護3が大半

- 介護保険によるサービスを「利用している」と回答した人に要介護度を尋ねたところ、「要介護2」と「要介護3」がともに5件で多く、「要支援1」「要支援2」「要介護1」がそれぞれ4件などとなっている。



7.3 訪問サービスと通所サービスの利用が大半

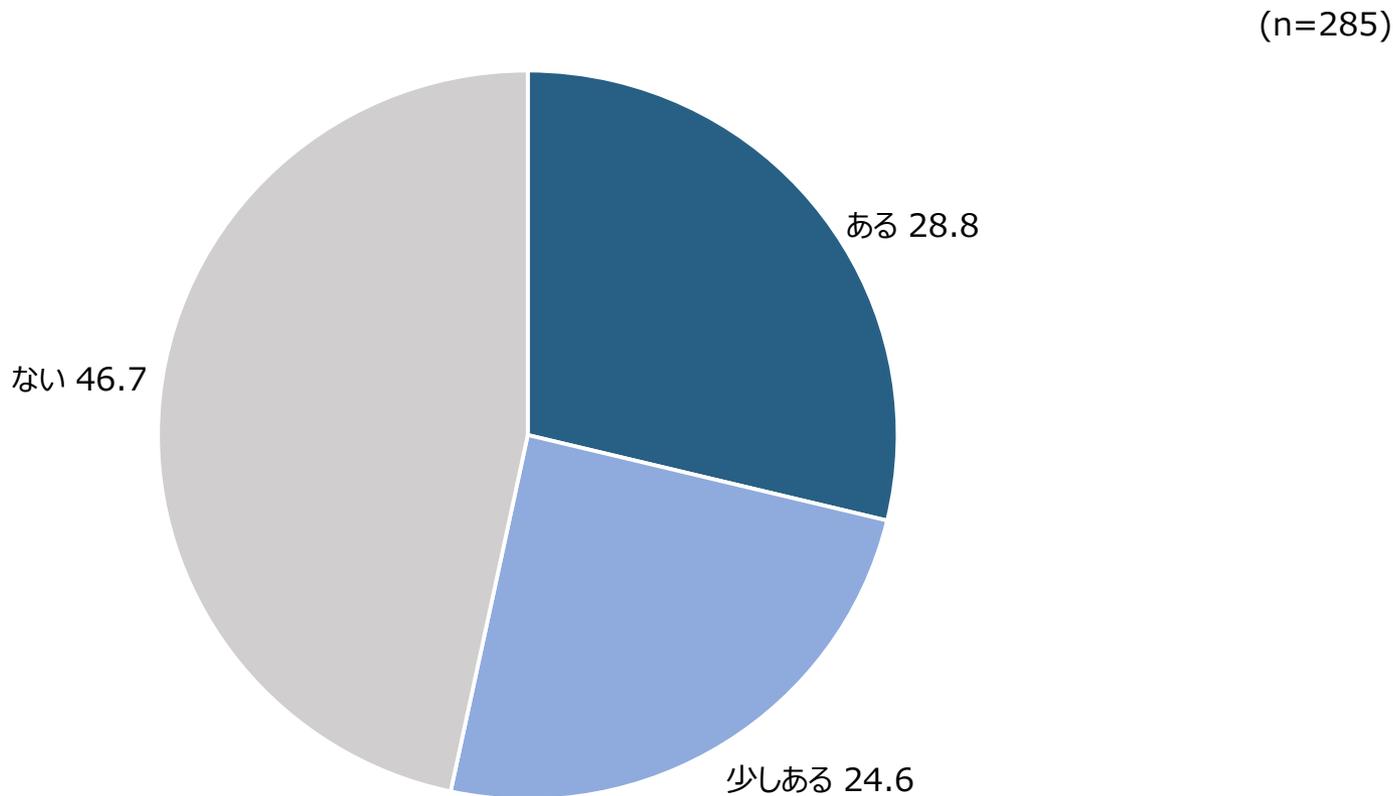
- 介護保険によるサービスを「利用している」と回答した人に、利用している介護保険サービスを尋ねたところ（複数回答）、「訪問サービス（訪問介護、訪問入浴、訪問看護、訪問リハビリテーションなど）」（17件）が最も多く、次いで「通所サービス」（14件）が続いている。



8. 権利に関することについて

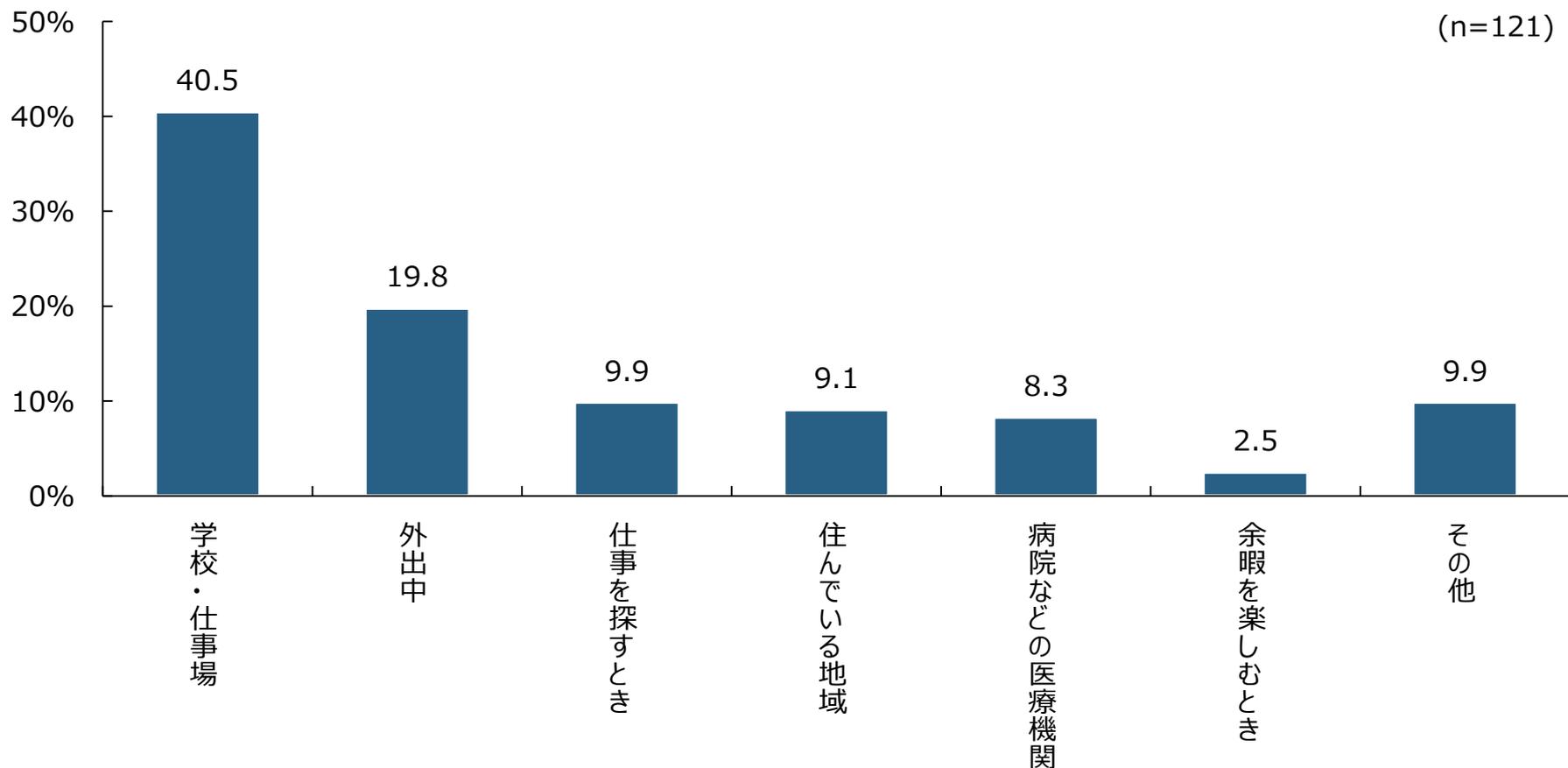
8.1 差別を感じたことがある人は5割強

- 障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるか否かを尋ねたところ、「ある」が28.8%、「少しある」が24.6%となり、2つを合わせた『差別等を受けたことがある』（53.4%）とする人は5割強となっている。



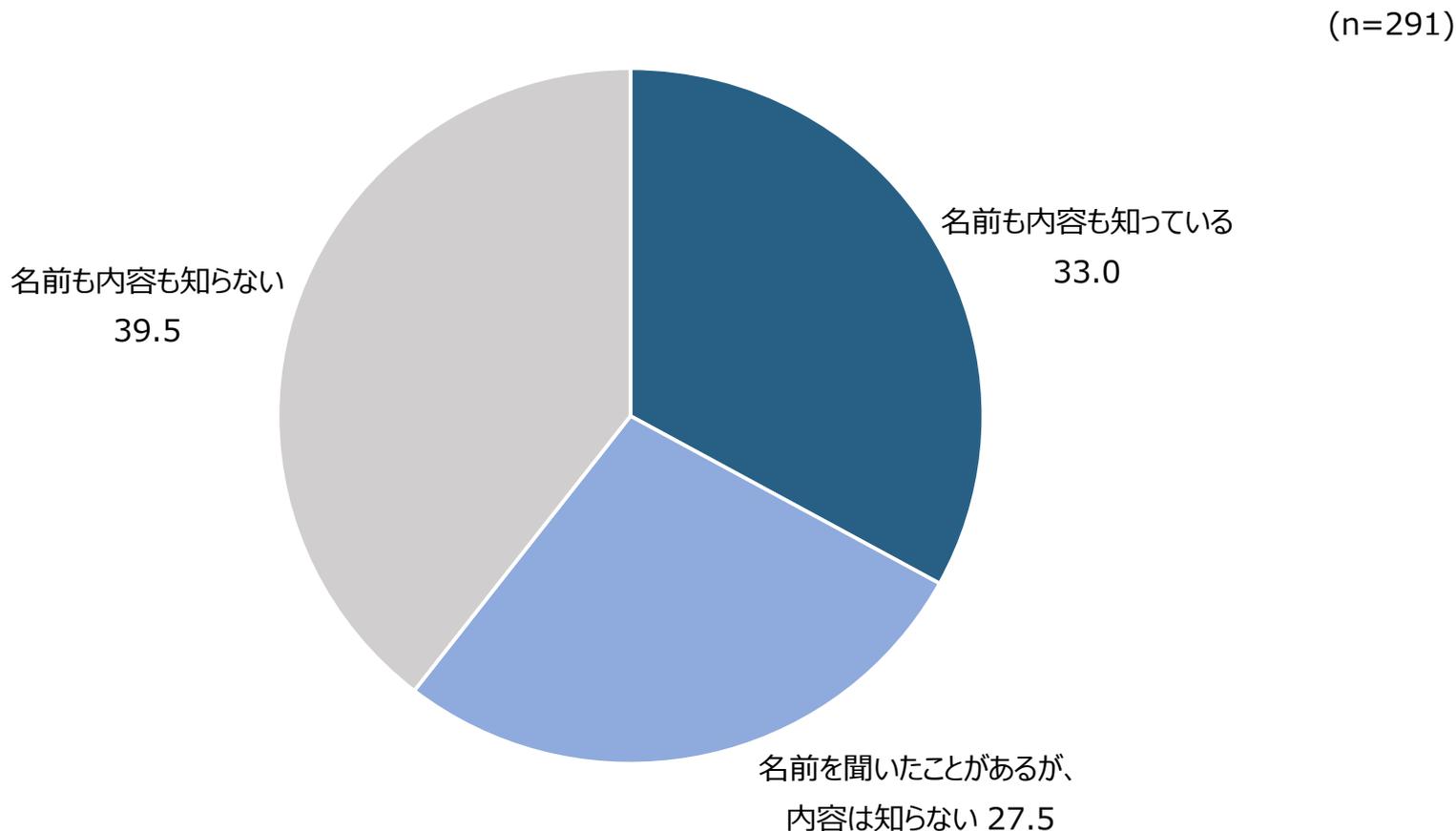
8.2 差別を感じる場所は学校・仕事場が多い

- 『差別等を受けたことがある』とした人に差別や嫌な思いをした場所を尋ねたところ、「学校・仕事場」（40.5%）の割合が最も高く、次いで「外出中」（19.8%）などとなっている。



8.3 成年後見制度の名前を知っている人は約6割

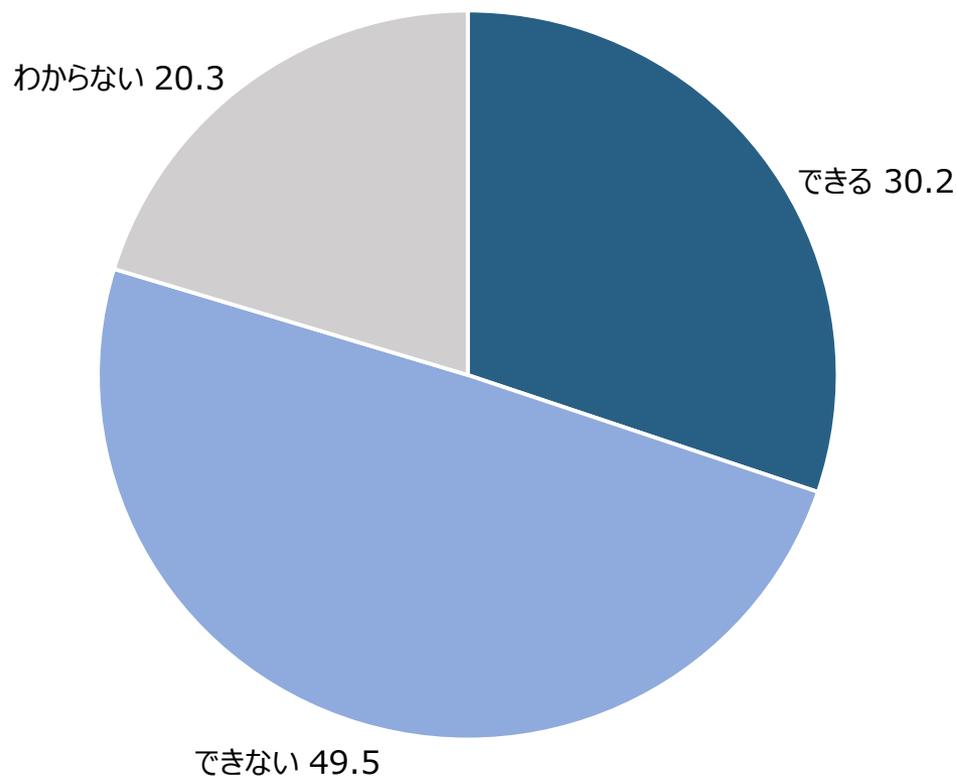
- 成年後見制度（成年後見制度とは、知的障がい、精神障がい、認知症などにより判断能力が十分でない方が、不利益にならないように家庭裁判所に申立をして、支援してくれる人を付けてもらう制度）の認知度を尋ねたところ、「名前も内容も知っている」が33.0%、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が27.5%となり、2つを合わせた『名前を知っている』（60.5%）とする人は約6割となっている。



9. 災害時の避難などについて

9.1 災害時に1人で避難できると思う人は約3割

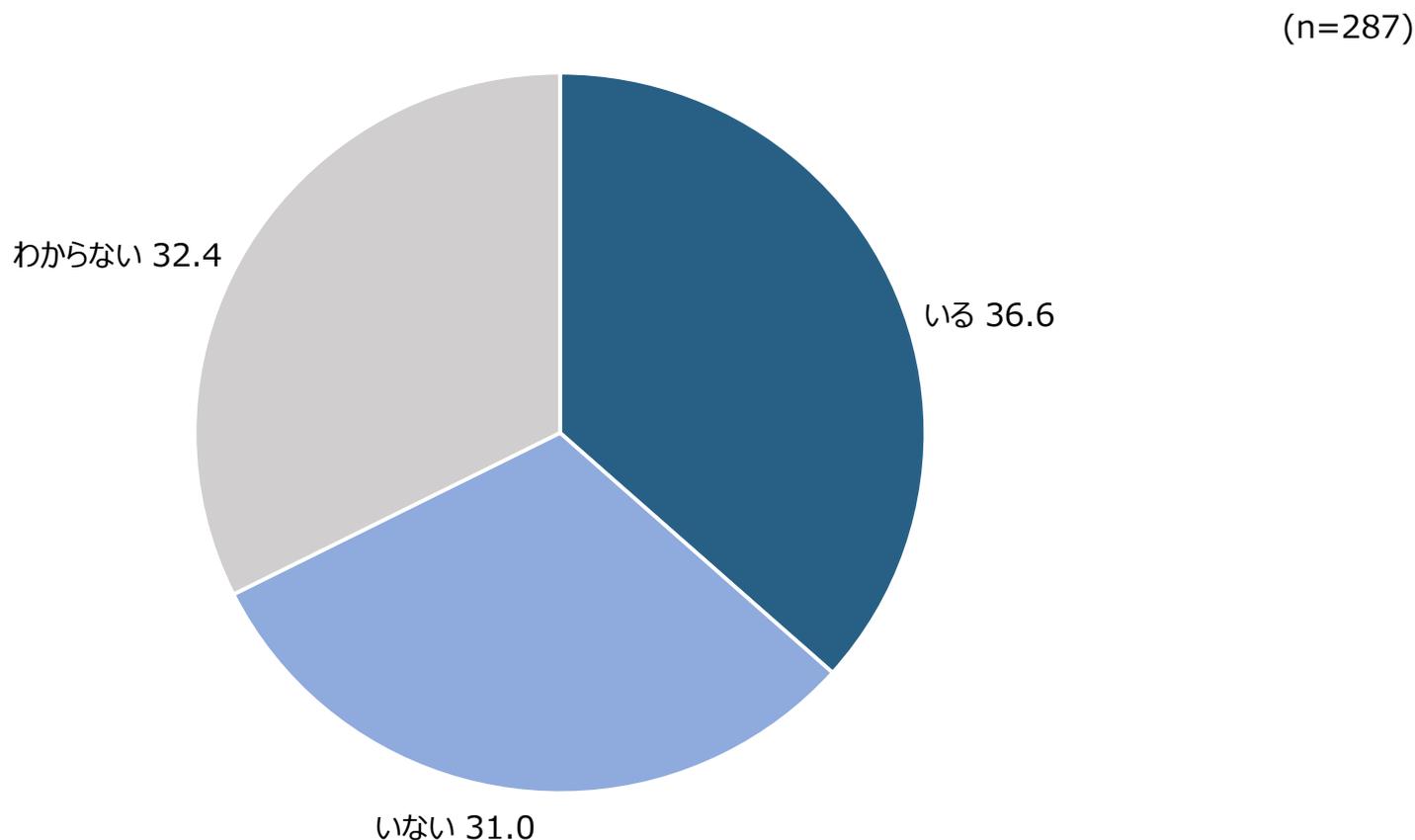
- 火事や地震などの災害時に1人で避難できるか否かを尋ねたところ、「できる」(30.2%)が約3割の一方で、「できない」(49.5%)が約5割となっている。また、「わからない」(20.3%)が約2割となっている。



(n=305)

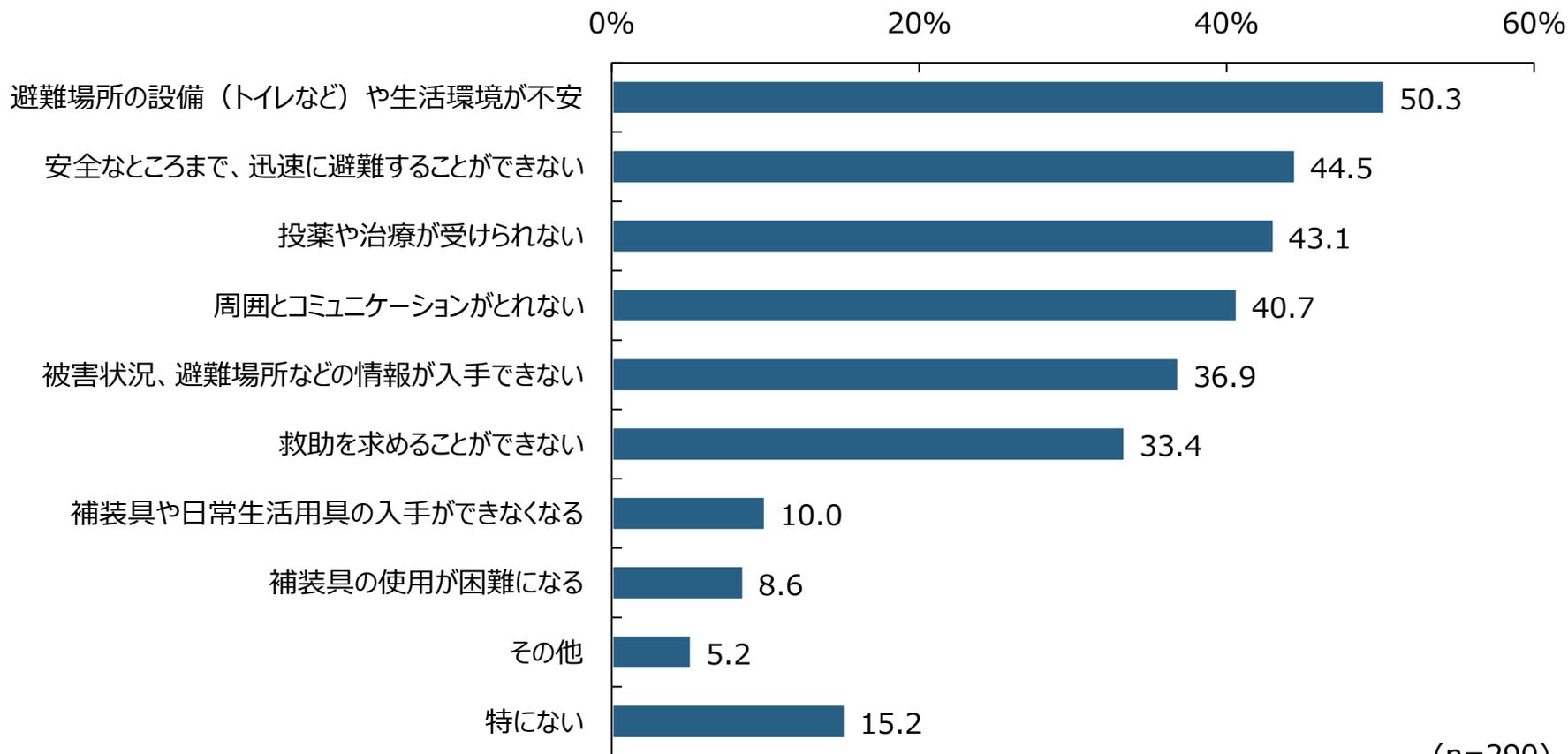
9.2 災害時に近所で助けてくれる人がいると思う人は3割台半ば

- 災害時に家族が不在の場合や一人暮らしの場合で、近所に助けてくれる人がいるか否かを尋ねたところ、「いる」(36.6%)が3割台半ば、「いない」(31.0%)が3割強、「わからない」(32.4%)が3割強となっており、分散した結果となっている。



9.3 災害時に最も困ることは避難場所の設備等

- 災害時に困ることを尋ねたところ（複数回答）、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」（50.3%）の割合が最も高く、以下「安全なところまで、迅速に避難することができない」（44.5%）、「投薬や治療が受けられない」（43.1%）、「周囲とコミュニケーションがとれない」（40.7%）、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」（36.9%）、「救助を求めることができない」（33.4%）などとなっている。
- 一方、「特にない」（15.2%）は1割台半ばとなっている。



(n=290)